

平成30年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校について

研究推進取組発表校は、学校・地域の実態に応じた年間指導計画を基に、実践内容や児童生徒の変容、実践の成果を各地区防災教育研究協議会（9月）、研究推進取組発表校発表会（1月）において発信した。

※発表資料は、報告書に掲載

【平成30年度仙台版防災教育研究推進取組発表校】 27校

〔青葉区〕	桜丘小学校	川平小学校	桜丘中学校	
	八幡小学校	国見小学校	第一中学校	
	青陵中等教育学校			
〔若林区〕	南材木町小学校	若林小学校	古城小学校	八軒中学校
〔宮城野区〕	田子小学校	高砂小学校	田子中学校	
	榴岡小学校	東宮城野小学校	連坊小路小学校	東華中学校
〔太白区〕	中田小学校	中田中学校		
	上野山小学校	太白小学校	山田中学校	
〔泉区〕	南光台小学校	南光台中学校		
	泉松陵小学校	松陵中学校		

平成30年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校 発表会 実施要項

1 日時 平成31年1月31日(木) 14:00～16:45

2 会場 仙台市教育センター 大研修室 他

3 発表校 27校

4 ねらい

- 平成30年度発表校が、学校や地域の実態に応じた年間指導計画を基に実践した内容や児童生徒の変容を発表し、取組の成果と知見を仙台市全体で共有する。
- 今年度、テーマを「仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項1『学区内の地理、気象条件等、環境や実態に応じた防災に関する活動の実施』」とする。
- 各学校の防災教育実現のために、カリキュラムマネジメントの視点で、平成31年度仙台版防災教育年間指導計画改善のための課題を探る。

【カリキュラムマネジメントの視点】

- ・ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- ・ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- ・ 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

5 日程

(1) 全体会【大研修室】 14:00～14:30

- ① 開会
- ② 教育委員会あいさつ
- ③ 本日の流れについて
- ④ 講話
 - 「震災遺構 仙台市立荒浜小学校の活用について」

(まちづくり政策局 防災環境都市・震災復興室)

(2) 発表会【各研修室】 14:30～16:45

- ① 開会
- ② 発表
- ③ 全体討議
- ④ 講評
- ⑤ 閉会

6 各研修室の発表校 ※時間は目安(1校:15分の発表)

時間 \ 会場	研修室2・3 (太白区)	研修室10・11 (青葉区)	研修室8 (宮城野区)	大研修室 (泉区) (若林区)
14:30～14:45	中田小	桜丘小	田子小	南光台小
14:45～15:00	中田中	川平小	高砂小	南光台中
15:00～15:15	上野山小	桜丘中	田子中	泉松陵小
15:15～15:30	休憩	休憩	休憩	松陵中
15:30～15:45	太白小	八幡小	榴岡小	南材木町小
15:45～16:00	山田中	国見小	東宮城野小	若林小
16:00～16:15	全体討議	第一中	連坊小路小	古城小
16:15～16:30	全体討議	青陵中等	東華中	八軒中
16:30～16:40	全体討議(質疑を含む)			
16:40～16:45	講評・閉会			

平成30年度 仙台版防災教育

研究推進取組発表校報告書

平成31年3月
仙台市教育委員会

平成30年度 研究推進取組発表校報告書 目次

学校名	区	年間指導計画作成上の工夫	P
中田小学校	太白区	・防災副読本『3.11から未来へ』を活用した防災教育	1・2
中田中学校	太白区	・保護者や地域と連携した防災教育 ・教科・領域等に関連した防災教育	3・4
上野山小学校	太白区	・地域関係諸団体と連携した安全・防災教育	5・6
太白小学校	太白区	・特別活動を基礎とした、地域と連携する防災学習	7・8
山田中学校	太白区	・地域合同防災訓練や防災に関連する学習を通して、地域とともに自助、共助のスキルを高める防災教育	9・10
桜丘小学校	青葉区	・地域の特性を踏まえ、地域と協力して行う防災教育	11・12
川平小学校	青葉区	・保護者や地域と連携した防災教育	13・14
桜丘中学校	青葉区	・生徒自らが自助・共助の具体を学ぼうとする防災教育 ・保護者や地域と連携した防災教育	15・16
八幡小学校	青葉区	・体験を通して知識を実践につなげる防災教育	17・18
国見小学校	青葉区	・防災意識を高める防災教育 ～自ら考えて行動できるように～	19・20
第一中学校	青葉区	(1) 地域との協力 (2) 小中の連携 (3) 防災副読本の活用 等	21・22
青陵中等教育学校	青葉区	・自助力を高め、防災委員会を中心とした活動	23・24
田子小学校	宮城野区	・教育活動全体(教科、特別活動、学校行事等)を通じた防災教育	25・26
高砂小学校	宮城野区	・東日本大震災の課題を踏まえ、危機回避能力と進んで他の人々や地域の安全を支える自助・共助の力の育成	27・28
田子中学校	宮城野区	・学校と地域が連携をし、生徒が地域の一員として活躍する防災教育	29・30
榴岡小学校	宮城野区	・教科等横断的な視点を重視した総合的な学習の時間を中心とする防災教育 ・実社会や実生活とつながりのある具体的な活動や体験を含んだ防災教育	31・32
東宮城野小学校	宮城野区	・総合的な学習の時間や学活を中心に、地域と連携した防災教育	33・34
連坊小路小学校	宮城野区	・地域の特徴を知り、適切に行動できる防災教育(幅広い防災対応力) ・震災の教訓を生かした防災教育(総合的な学習における位置付け)	35・36
東華中学校	宮城野区	・かしわタイム(朝学習の時間)を活用した防災教育 ・市、地域、消防、赤十字等と連携して実施した地域防災訓練	37・38
南光台小学校	泉区	・地形を考慮し、災害特性に対応した教科学習内容の構成 ・総合的な学習の時間を中心とした防災・減災教育	39・40
南光台中学校	泉区	・仙台版防災教育副読本による考察と「きずなWeek」のグループエンカウンター ・防災の在り方と、それを支える地域のつながり ・風水害の心配がある箇所の調査と結果の共有	41・42
泉松陵小学校	泉区	・仙台版防災教育における指導事項を意識して育てる防災教育の実践	43・44
松陵中学校	泉区	・自らの安全を確保できる力を養う防災教育 ・地域の力になり行動できる力を育成する防災教育	45・46
南材木町小学校	若林区	・地域と連携した防災教育	47・48
若林小学校	若林区	・保護者や地域と連携した防災教育	49・50
古城小学校	若林区	・実践を想定した防災教育	51・52
八軒中学校	若林区	・地域と連携した防災教育	53・54

【報告書の見方】

- 報告書「1 学校・地域の実態」, 「2 目指す児童生徒の姿」に示した番号は, 「仙台版防災教育年間指導計画に位置付ける事項」との関連を表しています。

<p>仙台版防災教育 年間指導計画に位置付ける事項 ※「仙台版防災教育実践ガイド(改訂版)」P. 9 参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学区内の地理, 気象条件等, 環境や実態に応じた防災に関する活動の実施 2 仙台版防災教育副読本の活用 3 東日本大震災の体験者からの講話等, 震災の教訓と記憶の風化の防止を踏まえた取組 4 学区内等の学校同士や保護者, 地域との合同による防災訓練の実施 5 復興ソングの継承
--

【報告書】

平成30年度 仙台版防災教育研究推進取組発表校 報告書		学校番号
仙台市立	小 中学校	担当者
1 学校・地域の実態	→ 番号	仙台版防災教育年間指導計画に位置付ける 事項に関連する番号(1~5)
2 目指す児童生徒の姿	→ 番号	
3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント		
4 児童生徒の変容		
5 実践の具体		
6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき, 平成31年度課題となること <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を, 教科等横断的な視点で組み立てること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し, その改善を図ること。 <input type="checkbox"/> 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。 		

仙台市立 中田 小学校

担当者 笠井 武

1 学校・地域の実態 ➡ **1・4**

- ・児童生徒：東日本大震災から7年が経過し、幼少期だった児童は当時の様子をあまり覚えていない。実感がない児童が増えてきており、防災に対する意識が年々薄れてきている様子が見られる。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、学校行事等への関心が高く協力的な保護者もいる。学校支援地域本部「中田っこすくすく応援団」では、1年生の学習サポート、各学年の校外学習等の付き添い、七夕の折り鶴作り、地域合同防災訓練への協力、学芸会の際の衣装や大道具作りなど教育活動へのボランティアを積極的に行っている。
- ・地域性（合同訓練等）：連合町内会と学校が合同で行う「地域合同防災訓練」を年1回実施している。当日は「防災に関する授業」を授業参観として行い、その後に親子で防災訓練の見学及び参加をしている。
- ・東日本大震災：津波の遡上による被害はなく、地震の揺れによる被害等も少なかった。避難所の設営をし、一時的な避難者はあったものの比較的すぐに解消した。
- ・学区内の地理、自然環境：学区内にはJR南仙台駅が西に位置し、旧国道4号線沿いにはかつて宿場町があった。国道4号線バイパスが学区のほぼ真ん中を通り、中田中学校近くには田んぼが広がっている。地盤は安定しており、ほぼ平坦な地形であることから土砂災害等の危険性は低い。学区北側に名取川が流れており、その周辺が豪雨による河川の氾濫、浸水被害の危険性がある。

2 目指す児童の姿 ➡ **2・4**

- （自助）災害に対する正しい知識や対処の方法を学び、非常時に適切な行動を取り身の安全を守る児童
- （共助）地域合同防災訓練への参加を通して、地域の一人であることを意識し、地域とともに減災・防災に取り組むことのできる児童

3 目指す児童の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・防災副読本『3.11から未来へ』を活用した防災教育

4 児童の変容

- ・15分間の朝学習、地域合同防災訓練や防災に関する授業参観などを通して、児童は「防災について学んだことを家族と話したい」と感想を持つことができ、防災に対する意識の高まりが見られた。

5 実践の具体

(1) 15分の朝学習の活用（6学年の学習の様子について）

毎月初めの15分朝学習の時間に年間指導計画に基づき防災副読本を活用した学習をしている。6年生では1月に第3章-4「大きな災害と人間の心の動き」の部分を用いて授業を実施した。テーマは1. 東日本大震災が起こったときの避難行動について、2. 災害時に伝達される情報との向き合い方、の2つであったが、緊急時の行動選択、そして、事実とは違う情報を流してしまうことの怖さについて真剣に学ぶ姿が見られた。



(2) 地域合同防災訓練実施日に「防災に関する授業」の授業参観を実施

年間指導計画をもとに「防災に関する授業」を授業参観という形でも実施し、児童及び保護者が防災についてじっくりと考えられる機会を作り、意識を高めるようにした。防災副読本を活用した授業では、この授業参観を含めて、各学年で扱う内容に系統性を持たせ、防災副読本の内容を児童の発達段階に応じて無理なく学べるように工夫している。



（授業参観実施内容）

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1年生「ぼうさいリュックをつくろう」 | 2年生「雨、風、かみなりについて知ろう」 |
| 3年生「生きるためにひつようなもの」 | 4年生「風水害から身を守ろう」 |
| 5年生「防災会議を開こう」 | 6年生「災害から身を守るために」 |

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

仙台市立中田小学校防災教育年間指導計画 第6学年

<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の自然災害について知る。 ・自然災害の種類やメカニズムについて知る。 ・防災や災害対応の関係機関や取り組みについて知る。 ・初歩的な応急処置の仕方について知る。 	<p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時には、危険を予測し、自分の命を守るために必要な行動を主体的に取る。 ・下学年の児童と一緒に避難する。 ・初歩的な応急処置ができる。 	<p>【態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーダーとして、下学年児童の世話をする。 ・災害が発生したときには、家族や友達、地域の方と助け合うと共にボランティア活動に参加する。 ・命を大切にし、家族や友達のことを思いやり、主体的に行動する。
---	--	--

月	防災関連行事	6年			
		教科	総合	特活	道徳
4	・緊急放送聞き取り訓練			避難経路の確認	
5	・避難訓練 (不審者想定)			3.11から未来へ 「災害が起きたら」 【4章-1】	
6	・避難訓練 (地震想定) ・引渡し訓練 (地震想定)	3.11から未来へ 「地震と津波のメカニズムと災害」(理科) 【3章-1】			
7				3.11から未来へ 「震災から文化財を守りつぐ人々」 【4章-8】	
8					
9	地域合同防災訓練 授業参観			3.11から未来へ 「災害から身を守るために」 【4章-2】	
10		3.11から未来へ 「災害時の情報手段」(社会) 【3章-3】			
11	避難訓練 (火災想定)			3.11から未来へ 「応急手当の方法と救急車の呼び方」 【4章-3】	
12	復興プロジェクト			3.11から未来へ 「立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト」 【2章-5】	
1				3.11から未来へ 「大きな災害と人間の心の動き」 【3章-4】	
2				3.11から未来へ 「防災知識をチェックしよう」【6章-1】 「学びの窓・震災の記録」 「復興年表」【6章-2, 3】	
3				東日本大震災について 3.11から未来へ 【1章-1, 2】	3.11から未来へ 「震災を語り継ぐ」 【1章-3】

仙台市立 中田 中学校

担当者 阿久津 慎也

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・児童生徒：学区が広いので、登校に30分以上かけてくる生徒がいる。避難訓練等は素早くできているが、指示待ちの傾向がある。非常時でも自らの安全を確保するための行動ができるよう指導を行う必要がある。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、引き渡し訓練など学校行事等への参加者は多く、協力的な家庭が多い。ほとんどの家庭が町内会に所属しており、つながりも強い。
- ・地域性：連合町内会が2つあり、それぞれの町内会で防災訓練を実施している。学校の防災訓練には、町内会長を招いて、物品や生徒の活動を参観してもらっている。
- ・東日本大震災時の地域の状況：建物等への大きな被害がなかったため、避難所を利用する住民は少なかった。避難所の運営も町内会を中心に行うことができた。
- ・学区内の地理、自然環境：名取川の南側に位置し、平地が広がる環境である。学区が名取川の氾濫による水害の浸水地域になっている。また、側溝等からの流出による浸水も考えられる。

2 目指す児童生徒の姿 → 1・4

(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、自らの安全を確保できる生徒
 (共助) 非常時に進んで他の人や地域の力になることができる生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・「保護者や地域と連携した防災教育」
- ・「教科・領域等に関連した防災教育」

4 児童生徒の変容

(自助) 保護者と地域と連携した防災訓練を通して、災害に関する正しい知識や対応方法を身に付けることができ、生徒に告知しない避難訓練でも冷静に判断し、昨年度よりも早い時間で避難することができた。

(共助) 保護者と地域と連携した防災訓練を通して、自分に何ができるかを考え、非常時に進んで他の人や地域の力になれるようにしたいと考えている生徒が増えた。

5 実践の具体

- (1) 『東日本大震災の経験から～いのちの大切さを学ぶ～』 (1, 3学年 保健体育)
自然災害の怖さや命の大切さを学ぶ機会として、5年前から毎年実施している。
講師の方を招き、1学年には着衣水泳を、3学年には講演を実施した。
- (2) 『防災知識の共有～我が家の防災対策～』 (3学年 国語)
資料活用型スピーチの単元で、資料を効果的に活用して我が家の防災対策について1分間のスピーチを行った。
- (3) 『防災に関する知識～文章問題を通して～』 (3学年 数学)
2章平方根、3章 $y = ax^2$ などの単元の活用で、防災に関わる問題を提示し、取り組ませた。
- (4) 『災害時のコミュニケーション～グループ学習を通して～』 (3学年 英語)
Unit4 To Our Future Generations の単元で、災害時に日本語の分からない外国人とコミュニケーションをとる場面を設定し、ALTとの授業を行った。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知 識		技 能		態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科		学活・総合	学校行事	生徒会	道徳
	関連行事等						
4	春の交通完全運動 校内安全点検	特別教室での注意(理科)	集団行動(保体) 情報に関する技術(技術)	登下校の安全 大地震 交通網のまひ	入学式 1学期始業式 非行防止教室	対面式 任命式	生命の尊さ
5	校内安全点検	用具の使い方(理科) 平方根(数学) 実践(3)	特別教室での注意(美術・保体・技家)用具の使い方(美術・保体・技家)	緊急時の連絡方法 大型連休の安全	校外学習 避難訓練(地震) 大地震	生徒総会 挨拶運動	集団の意義
6	みやぎ県民防災の日 市中総体 校内安全点検	実践(1) 火災	水泳(保体) 大雨, 河川洪水,	雨天時の安全	市中総体と安全 合唱コンクールと安全	激励会 挨拶運動	自主自立
7 8	全国安全週間 夏の交通事故防止運動 青少年の非行被害防止強 調月間 校内安全点検	二次関数(数学) 薬品の使い方(理科) 実践(3)	水泳(保体)	一次避難場所の確認 夏休みの安全	地区集会 文化発表会と安全	激励会 挨拶運動	法の遵守
9	防災週間 国民防災の日 秋の交通安全運動 校内安全点検	Unit4 To Our Future Generations(英語) 実践(4)	デザインと環境(美術)	災害時の対応	防災訓練 大地震 大雨, 河川洪水 交通網のまひ	立会演説会 挨拶運動	奉仕
10	安全・安心なまちづくりの日 全国地域安全運動 校内安全点検	話し合って提案をまとめよう(国語) 地方自治と私たち(社会) 実践(2)		秋休みの安全	1学期終業式 2学期始業式 運動会と安全	任命式 挨拶運動	友情の尊さ
11	全国火災予防運動 津波防災の日 校内安全点検			火災時の対応	避難訓練(火災) 火災	挨拶運動	社会連帯
12	年末年始の交通事故防止 運動 校内安全点検	課題解決に向けて話し合おう(国語) 三平方の定理(数学)	感染症の予防(保体)	冬休みの安全	新入生授業参観	挨拶運動	郷土愛
1	国民防災とボランティア週 間 校内安全点検	自然の恵みと災害(理科) 大雨, 増水, 河川増水, 落雷, 暴風, 大雪		火気の取扱 凍結時の安全 火災		挨拶運動	人間愛
2	校内安全点検		家族・家庭と子どもの成長(家庭)	降雪時の安全 大雪, 交通網のまひ		予餞会 挨拶運動	生命の尊重
3	春期全国火災予防運動 校内安全点検	標本調査(数学)		春休みの安全	卒業式 2学期終業式	挨拶運動	社会への奉仕

仙台市立 上野山 小学校

担当者 鈴木 和彦

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：震災から7年が経過し、震災の備えに対する意識の薄れが見られる。学区が広く、登下校に30分以上かかる児童もいるので、周囲の人々と協力して安全を確保するための行動ができるように指導を行う必要がある。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、学校行事への参加者は多い。
- ・地域性：学校と地域は、「学区民運動会」や「市民祭り」などで良好な関係を築いている。
- ・東日本大震災時の地域の状況：海から離れているため津波の被害はなく、地盤がしっかりしているので建物の被害もあまり大きくなかった。
- ・学区内の地理、自然環境：丘陵地帯に位置しており、土砂崩れが懸念される。学区内に土砂災害警戒区域に指定されている場所がある。

2 目指す児童生徒の姿

1・4

- (自助) 災害時に状況に応じた冷静な判断をし、自分の命を守るための主体的な行動ができる児童
 (共助) 地域と積極的に関わり、周囲の人と協力しながら献身的に行動しようとする児童
 災害に備えた学校及び地域の取組を理解し、主体的に関わることができる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

地域関係諸団体と連携した安全・防災教育

4 児童生徒の変容

地域合同防災訓練で学年に応じた機能訓練を行うことにより、防災に対する意識や知識が高まった。地域の方々とは活動したことでつながりが深まり、地域の中で自分ができることは何かを考えることができた。

5 実践の具体

(1) 交通安全・集団下校訓練（たてわり遠足）

たてわり活動の一つで、各地区に分かれて目的場所である「縄文の森広場」へ向かった。その際に高学年がリーダーシップをとって、交通安全に気を付けて子供たちを先導した。縄文の森広場では地区ごとに活動し、子供同士のつながりを深めることができた。

帰りはそれぞれの地区が集団で一時避難所に向かい、災害時に集まる場所であることを確認して解散した。

(2) 地域合同防災訓練

10月27日に山田中学校・人来田中学校区にある近隣5校の小中学校と地域が合同で同時に行う地域合同防災訓練を行った。自宅から一時避難所を経由して、それぞれの避難所である学校に向かい、その後消火体験やロープワークをしたり、応急処置の仕方やテントの張り方などの機能訓練を行ったりした。当日は雨天のため活動内容を変更し、雨天時の避難の仕方や準備物について確認をした。

実行委員会で地域の方々や関係機関と共通理解を図り、場合によっては臨機応変に対応して訓練を行うことができた。防災だけでなく防犯の観点からも地域とのつながりを深めていく必要性を感じた。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

目指す児童の姿(高学年)→・災害時に状況に応じた冷静な判断をし、自分の命を守るための主体的な行動ができる。(技能)

- ・地域と積極的に関わり、周囲の人と協力しながら献身的に行動しようとする。(態度)
- ・災害に備えた学校及び地域の取組を理解し、主体的に関わることができる。(知識)

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳
	関連行事等				
4	・戸口訪問 ・防災訓練(地震:避難経路確認)	・ものの燃え方と空気(理科)	たてわりと地域の方々との関わりも意識させる。 ・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	児童会のスローガン ・あいさつ運動	・心を形に ・うちら「ネコの手」ボランティア
5	・集団登下校訓練	・ものの燃え方と空気(理科)	・集団登下校のためのたてわり活動	・あいさつ運動	・おばあちゃんのさがしもの
6	・復興プロジェクト(七夕飾り)	・水泳(体育)	☆家族防災会議を開こう(4章④) 上小まつりを成功させよう	・あいさつ運動 ・たてわり活動(七夕飾りを作ろう)	・車いすでの経験から ・土石流の中で救われた命 ・ばかじゃん!
7		・生き物のくらしと環境(理科) ・水泳(体育)	活動を通して児童会スロー	・あいさつ運動 ・夏休みの生活	
8	・地域行事への参加 ・防災訓練(火災)	・水泳(体育)	・避難訓練事前事後指導	・地域行事への参加	
9		・水泳(体育) ・大地のつくり(理科)		・あいさつ運動	
10	・地域合同防災訓練	・変わり続ける大地(理科)	・地域合同防災訓練事前事後指導 ・災害に備えて(地震)	・あいさつ運動	・言葉のおくりもの ・お母さんへの手紙
11	活動を通して、地域の方々への感謝の気持ち	・町の幸福論(国語)		・あいさつ運動	
12		・震災復興の願いを実現する政治(社会)		・あいさつ運動 ・冬休みの生活	銀のしょく台
1		・共に生きる生活(家庭)		・あいさつ運動	・心を通じた「どうぞ」のひとつ
2		・病気の予防(保健)		・あいさつ運動	・東京大空襲の中で ・小さな連絡船「ひまわり」
3		・地球に生きる(理科)			・桜守の話

児童会スローガン「つながるキラキラえがおのあいさつで」

たてわり活動

スローガンが達成できたか振り返ろう

○年間指導計画に基づいて取り組んだ結果、児童は
のような変容が見られた。

☆ 副読本活用

仙台市立 太白小 学校

担当者 小笠原 英世

1 学校・地域の実態

3・5

- ・児童生徒：東日本大震災時の被害が少なかったこと，7年が経過したことから，震災に対しての恐れや備えに対する意識の薄れが見られる。震災についての記憶を風化させることなく，常に防災に備える意識を高める必要がある。
- ・保護者：共働き世帯が多いが，学校行事等への参加者が多く，協力的な家庭が多い割には，地域合同防災訓練への参加にはやや消極的である。
- ・地域性：連合町内会が中心となり，自主防災訓練に取り組んでいる。3地域5校小中合同防災訓練を同日同時刻に実施している。
- ・東日本大震災時の地域の状況：大きな被害がなく，電気の復旧と同時に避難所利用者がいなくなった。短期間の運営だったが連合町内会会長を中心に地域住民が協力して避難所運営を行った。
- ・学区内の地理，自然環境：仙台市南西部にある太白山の麓，海拔110メートルの地にある。学区内の一部が土砂災害警戒区域となっている。坂道が多いため，特に降雪時には十分注意が必要である。

2 目指す児童生徒の姿

3・4

- (自助) 災害時に状況に応じた冷静な判断をし，自分の命を守るための主体的な行動ができる児童
(共助) 地域と積極的に関わり，周囲の人と協力しながら献身的に行動しようとする児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・「特別活動を基礎とした，地域と連携する防災学習」

4 児童生徒の変容

- ・静かさや落ち着きも増し，その重要性を理解する児童が増えた。
- ・合同防災訓練，復興への取組において互いに協力し，自分にできることを進んで行う姿が見られた。

5 実践の具体

(1) 地域合同防災訓練(10月)

地域と小学校が合同で行う防災訓練を継続して実施している。昨年度同様，近隣5校(山田中・太白小・上野山小・人來田中・人來田小)による同日開催での地域合同防災訓練が開催された。児童生徒と住民は自宅から一時避難場所を経由し，指定避難場所となる各小中学校へ避難。それぞれの指定避難所で準備しているプログラムに沿って防災訓練を実施。本校では，1～4年は，地区の地域の方と一緒に諸訓練(①地震体験【ぐらら】②通報訓練/倒壊建物救出訓練③初期消火訓練④発電機訓練⑤災害時給水栓操作設置訓練)，5年は，炊き出し訓練，6年は，応急救護訓練，中1・2年は，避難所運営ゲーム，中3は，避難所立上げ運営・簡易トイレ組立・車椅子使用訓練の実施を予定していたが，雨天のため一部活動を変更し実施した。

(2) 復興プロジェクト(11月)

「セレモニー」と「地域の方と一緒に落ち葉拾い」の2部構成で実施。セレモニーでは，東日本大震災についての記憶を風化させないよう震災当時の体験談を地域の方からお話いただいた。日頃お世話になっている地域の方へ感謝の気持ちも伝えた。最後に吹奏楽部の伴奏で「希望の道」を全員で斉唱した。

(3) 地域の方々への感謝の会【米づくり感謝の会】(12月)

本校の教育活動は，たくさんのボランティアの方々のご協力があって成り立っている。今年度も5年生が「米作り感謝の会」を開催し，地域の方々を招待して日頃の感謝の気持ちを伝えた。5年生が育てたお米をお世話になっている地域の方々にメッセージを添えて贈った。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき，平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を，教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し，その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

目指す児童の姿(高学年)→災害時に状況に応じた冷静な判断をし、自分の命を守るための主体的な行動ができる。(技能)
 ・地域と積極的に関わり、周囲の人と協力しながら献身的に行動しようとする。(態度)
 ・災害に備えた学校及び地域の取組を理解し、主体的に関わることができる。(知識)
 年間指導計画作成上の工夫→特別活動を基盤とした、地域と連携する防災学習

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度			
学習内容		防災や災害に関する 周辺的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容			
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳	児童会スローガン「スマイル・協力・太白」 たてわり清掃			
4	・戸口訪問(居住地確認) ・不審者対応訓練	・集団行動(体育)		・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	☆歩み出す力強く(1章②) 児童会のスローガンをきめよう。				
5	・戸口訪問(居住地確認) ・集団登下校(子供会役員、まもライダー)		・水害に対する水田の役割	たてわりと地域の方々との関わりも意識させる。					
6	・交通安全教室(仙台南警察署交通課) ・避難訓練(地震) ・防災訓練・Jアラート訓練	・けがの防止(保健) ☆応急手当の方法と救急車の呼び方(4章⑦:体育)		・避難訓練事前事後指導 ☆災害時をくらすヒント(4章⑥)					・3(1)生命の尊重「命がないと始まらない」
7		・やってみよう家庭の仕事(家庭) ・野活調理(家庭)			・夏休みの生活				☆希望の詩～「ない」～(2章①)
8	(地域行事への参加) ・集団下校(まもライダー)				・地域行事への参加				・2(3)友情・信頼「ずぶぬれの沢のぼり」
9		・着衣水泳(体育) ・台風と天気の変化(理科) ☆いろいろな自然災害(3章③:理科)		・野外活動時の災害発生への対応					・3(2)自然愛・環境保全「一ふみ十年」
10	・集団登校・避難訓練(火災) ・3地域合同防災訓練(各町内会、SBL、日赤、太白消防署、市役所職員)	・流れる水のはたらき(理科) ☆心と向き合っ(4章⑧:体育)		・避難所設営補助					☆心と向き合っ(て)て震災で傷ついた人の相談にのろう
11	・復興プロジェクト「落ち葉拾い」(地域支援本部、地域ボランティア)		・米飯の炊飯	・避難訓練事前事後指導	☆立ち上がり！ぼくらの復興プロジェクト(2章④)				・3(1)生命尊重「コースチャぼうやを救え」
12	・若葉まつり ・集団下校(まもライダー)	・情報を生かすわたしたち(社会) ☆災害時の情報手段(3章④:社会)	・米作り感謝の会(地域の方に支えられていることを感じる)地域ボランティア	復興プロジェクトに向けてめあてを持つ 活動を通して、地域の方々への感謝の気持ちを持つ。	若葉まつりを成功させよう 活動を通して協力・あいさつ太白が実現できたかを確かめる。			・冬休みの生活	
1	・集団登校(地区子供会役員)								
2					☆Heroes 2011 Japan(5章⑤)				
3		・自然災害を防ぐ(社会) ☆津波のメカニズムと災害(3章②:社会)		☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・春休みの生活 ☆防災知識をチェックしよう(6章①)				

○年間指導計画に基づいて取り組んだ結果、児童は

のような変容が見られた。

☆ 副読本活用

仙台市立 山田 中学校

担当者 高野 慎也

1 学校・地域の実態 → 3・4

- ・児童生徒：東日本大震災から約7年が経過し、震災当時の記憶が薄らいできている状況である。改めて、災害発生時に伴う危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動と日常的な備えができるようにする必要がある。
- ・保護者：学校行事等の参加者も多く、協力的な家庭も多い。
- ・地域性：防災への関心は高く、避難所運営も町内会を中心に積極的に準備される。年に1回の地域と学校の合同防災訓練は地域が主導して計画されている。
- ・東日本大震災時の地域の状況：家屋の大きな損壊はほとんどなかったが、電気、水道、ガスが普及するまで数週間かかった。
- ・学区内の地理、自然環境：仙台市中心部から南西に位置している。近くに太白山や筑川があり自然に恵まれた地域である。一方、以前台風による大雨で、近隣の崖で土砂崩れが起きたこともある。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

- (自助) 災害発生時に自ら危険を予測し、危険を回避するために主体的に行動し、災害から生命を守ることができる生徒。
- (共助) 助け合いの心の大切さについて理解を深め、被災時には地域のために行動できる生徒。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

地域合同防災訓練や防災に関連する学習を通して、地域とともに自助、共助のスキルを高める防災教育

4 児童生徒の変容

地域合同防災訓練や防災に関連する学習を通して、災害や防災に対する知識や意識を持つ生徒が多い。地域から中学生の力を必要とされているが、少しずつ主体的に行動できる生徒が増えてきた。

5 実践の具体

(1) 地区生徒会 (6月1日金曜日)

【内容】所属する地区ごとに①自己紹介②危険箇所の確認・共有③地域のためにできることを話し合う。

(2) 仙台版防災教育副読本を活用した授業 (6月12日火曜日)

【内容】1学年：自分を守る (第4章②)

2学年：一人一人が災害に備える (第4章①)

3学年：約束 (第2章②)

(3) 地域合同防災訓練 (10月27日土曜日) …山田中, 太白小, 上野山小, 人来田小中が同日開催

【内容】所属する地区ごとに一時避難所へ避難

↓

各指定避難所で学年ごと機能訓練

(例) 山田中学校 1年：AED訓練 2年：テント村設置訓練 3年：備蓄運搬/発電機作動訓練

(4) 命を大切にする授業 (12月11日火曜日)

【内容】語り部の方から震災や命の大切さについて学ぶ。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿 (目標) の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況进行评估し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
4	校内安全点検 災害時引き渡しカード 配付・回収	保体 健康な体		連絡網の確認 避難経路確認 自助	生きる大切さ 「自分の番 いのちのバトン」		
5	校内安全点検 自転車安全指導	技術 木工具の安全な使い方	自助	連休の過ごし方 校外学習緊急時の対応 自助	家族の絆 365×14回のありがとう		
6	避難訓練（地震による 火災想定） 地区生徒会	理科 身の回りの物質	副読本 P 38～39 「一人一人が防災に備える」 自助 地区生徒会 共助	避難訓練 自助	自主的な判断 アキラの選択		
7	校内安全点検 防犯訓練 安全教室 家庭訪問	保体 薬害について		夏休みの過ごし方	責任と役割 「小さな一歩」		
8							
9	校内安全点検				住みよい社会 「バスと赤ちゃん」		
10	山田地区合同避難訓練 （地震）	技術 安全な作業 理科 身の回りの現象	避難訓練 初期消火訓練 AED 使用訓練 防災備蓄食品による給食 自助 共助	避難訓練 秋休みの過ごし方	心の温かさ 「夜のくだもの屋」		
11	校内安全点検 教育相談				郷土を愛する 「娘のふるさと」		
12				冬休みの過ごし方 自助	命の授業 語り部 大川ゆかり氏		
1	校内安全点検	理科 動き続ける大地・地震に伴う災害			副読本 「花と緑で人々を笑顔に」		
2		理科 火を噴く大地			支え合う家族 「ふたりの子供たちへ」		
3	校内安全点検	社会 仙台平野災害の歴史		春休みの過ごし方	愛国心 「負けへんで」		

仙台市立 桜丘 小学校

担当者 松浦 武雄

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：震災時に幼少期だった児童がほとんどであり、また、震災時に大きな被害がなかったこともあり、防災に対する意識や知識が不足気味である。正しい知識を与え、いざという時に自分で判断できるよう指導を行う必要がある。
- ・保護者：共働きの世帯が多く、放課後子供たちだけで過ごしている家も多い。日々の生活の中で、子供とゆっくり会話をする時間もなかなか取れないようであるが、引き渡し訓練への参加などは協力的である。
- ・地域性：歴史ある町内会がいくつもあり、地域防災訓練を行っている。以前は、学校とは別に行っていたが、児童も参加するなど少しずつ形を変えながら取り組んでいる。今後は中学校などと連携して取り組んでいきたいところである。
- ・東日本大震災時の地域の状況：学校・学区共に大きな被害はなかった。避難所を開設したが、避難者の数が少なかったため、3日ほどで運営をやめている。
- ・学区内の地理、自然環境：台風や大雨の際に冠水、土砂崩れが心配される箇所が何か所がある。

2 目指す児童生徒の姿

1・2・5

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童
- (共助) 非常災害時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「地域の特性を踏まえ、地域と協力して行う防災教育」

4 児童生徒の変容

- ・防災の授業を行うことにより、自分にできることは何か分かるようになり、避難訓練に真剣に取り組むなど、防災の意識は高まっている。
- ・今まで何気なく見ていた風景が、防災の視点を加えることによって危険なことに気付くようになった。

5 実践の具体

(1) 防災マップ作り (5年 総合的な学習の時間)

地域の方々と5年児童が一緒になって5～6人の少人数グループを形成し、担当の地域を回り調査した。今年度は、防災の視点をより明確にするために、危険が潜んでいる場所、災害時に使えそうなもの、落ちてこない・倒れてこない・移動してこないの三つのないがそろった場所などの視点をもとに調査し、更にそれぞれのグループの結果を持ち寄り、防災マップを作成した。

(2) 地域防災訓練

5年生が「濃煙体験」「水消火器」「心肺蘇生法・AED体験」など地域の方々、中学生などと一緒に地域防災訓練に参加。以前は学校とは別に行っていたが、昨年度は、一時避難所から子ども会の保護者と共に登校する取り組みを行い、今年度は、5年生が地域の防災訓練に参加。このように年々参加の方法を見直している。地域防災訓練参加後に、防災に関する授業も行った。この日は、地域防災訓練に参加しない5年生以外の学年も同時に防災の授業に取り組んでいる。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画

桜丘小学校 第5学年

防災対応力の構成要素		知識	技能		態度
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳
	4	・交通教室(1, 2年)	・集団行動(体育) ・世界の中の国土(社会)		・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認
5	・遠足(集団での歩き方)	・集団行動(体育)			
6	・交通教室(3~6年) ・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練 ・シェイクアウト訓練(1~6年)	・水泳(体育) ・暮らしを支える食料生産(社会)	☆災害から身を守るために(4章②)	・避難訓練事前事後指導 ☆災害時をくらすヒント(4章⑥)	
7	・防犯教室2, 4, 5, 6年	・水泳(体育) ・やってみよう 家庭の仕事(家庭)	・野外活動時の災害発生への対応		・夏休みの生活
8	(地域行事への参加)				・地域行事への参加
9	・野外活動 ・緊急時避難訓練	・着衣水泳(体育) ・台風と天気の変化(理科) ☆いろいろな自然災害(3章③:理科)	・救命講習		
10	・地域防災訓練参加	・流れる水のはたらき(理科) ☆心と向き合っ(4章⑧:体育)	・防災マップを作ろう		
11	・復興プロジェクト ・避難訓練(火災)			☆立ち上がり！ぼくらの復興プロジェクト(2章④) ・避難訓練事前事後指導	
12		・情報を生かすわたしたち(社会) ☆災害時の情報手段(3章④:社会)			・冬休みの生活
1					
2					☆Heroes 2011 Japan(5章⑤) 一本松は語った
3		・自然災害を防ぐ(社会) ☆津波のメカニズムと災害(3章②:社会)		☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	・春休みの生活

☆ 副読本活用

仙台市立 川平 小学校

担当者 永島 功三

1 学校・地域の実態

1 - 4

- ・児童生徒：東日本大震災による被害が少なく復旧が比較的早い地域であったため、防災意識が希薄な児童も見受けられる。その一方で、各種訓練時は迅速に避難し、指導内容を意識して行動できる。学区が広く、登下校に30分程度かかる児童もいるため、今後は緊急時に自分で冷静に判断して行動したり、物事を正確に伝え合うコミュニケーション能力を育成したりすることが必要だと考えられる。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、学校行事への参加者は多く、協力的な家庭が多い。
- ・地域性：地区防災協会が中心となり、「地域版避難所運営マニュアル」を作成。学校・地域・家庭で連携し、マニュアル検証のための訓練を行うなど、防災について積極的な取り組みを行っている。
- ・東日本大震災時の地域の状況：震災直後は一部町内会において混乱が生じたが、学校が主体となって避難所運営にあたった。建物の被害は少なかったが、地域全体に老朽化した建物が増えつつある。
- ・学区内の地理、自然環境：本校周辺を含め、土砂災害等警戒区域（急傾斜地）に指定されている箇所がある。通学路に傾斜地が多く高低差の大きな地域であり、冬場には凍結する坂道も多い。

2 目指す児童生徒の姿

2 - 4

- (自助) 災害に関する基礎的な知識や対応方法を身に付け、災害時に落ち着いて行動し、身を守ることができる児童
 (共助) 災害時やその後の対応と復興に向けて、互いに協力し合って進んで行動できる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「保護者や地域と連携した防災教育」

4 児童生徒の変容

地域との合同防災訓練やボランティアに感謝を伝える会などを通して、自身が地域の一員であることの自覚が芽生えると同時に、副読本を活用した授業を通して自助・共助についてよく理解し、災害時には自分の身を守り、進んで他の人や地域のために行動しようとする意識が育ってきた。

5 実践の具体

【10月13日（土）地域合同防災訓練から】

(1) 防災副読本を使用した防災授業 「避難所での生活について考えよう」（5年生/学級活動）

各学年で、防災副読本を使用した防災授業を行った。5年生では、防災副読本（第4章1「災害が起きたら」）を活用しながら、避難所での生活の仕方について考えた。避難所で起こり得る様々な場面を児童に提示し、自助・共助の観点から、「自分であればどのように行動するか」について意見交換を行った。

(2) 火災を想定した避難訓練

地域合同防災訓練では、火災を想定した避難訓練を実施した。児童の避難の様子を消防署、保護者、地域の方も見学した。訓練終了後は、青葉消防署による水消火器を使用した油火災の消火活動を見学した。

(3) 防災・身体保護等に関する体験活動

- 1～3年：民間の防災協会が推奨する防災ゲーム
- 4年：「タフレンジャー」を使用して負傷者搬送の体験活動
- 5年：ラップフィルムでの応急措置訓練
- 6年：心臓マッサージによる心肺蘇生訓練
- ※5・6年の活動は青葉消防署が指導



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

第5学年 仙台版防災教育年間指導計画

仙台市立川平小学校

防災対応力の構成内容		知識	技能		態度
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合的な 学習の時間	特別活動	道徳
4	避難経路確認 避難訓練①	「天気の変化」(理科)	★「災害から身を守るために」(第4章②)		
5	避難訓練② Jアラート対応訓練	「わたしたちの国土」 (社会)		●「災害のとき」の	★「歩み出す力強く」(1章②)
6	引き渡し訓練 (隔年晴天時/雨天時) 身体保護訓練	「国土の気候の特色」 (社会) 「心の健康」(保健)	★「災害に備える」 (第4章⑤)		
7	復興プロジェクト			●「夏の安全、冬の安全」⑤	「夏休みの過ごし方」(学活) ★「希望の詩～『ない』～」 (第2章①)
8	(地域行事への参加)				
9			★「災害時をくらすヒント」(第4章④)		
10	地域総合防災訓練 (避難訓練③/防災授業/各種体験活動)	「台風と天気の変化」 (理科) ★「心と向き合って」 (第4章⑦)	★「災害から身を守るために」 (第4章②)		「クマのあたりまえ」 (生命尊重)
11	復興プロジェクト ありがとうの会	「流れる水のはたらき」 (理科)			★「広がれ、つながれ、みんなの思い」(第5章③)
12			★「家族防災会議を開こう」(第4章⑥)	●「夏の安全、冬の安全」⑤	「正月料理」 (伝統や文化を受け継いで)
1		「情報化した社会とわたしたちの生活」 (社会)		★「防災知識を チェックしよう」 (第6章①)	
2		「けがの防止」 (保健)			★「仙台の自然災害年表・復興年表」(第6章③)
3	復興プロジェクト	「わたしたちの生活と環境」(社会)			★「思いをかたちに」(第5章⑤) 「イルカの海を守ろう」 (自然愛護)

★防災副読本活用

●安全副読本活用

仙台市立 桜丘 中学校

担当 相澤 弘行

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・児童生徒：ボランティア精神に富み、地域行事に意欲的に取り組んでいる。学区は広く、川平地区は登下校に30分以上かかり、防災について、自ら安全を確保するための行動ができるように指導を行う必要がある
- ・保護者：共働き家庭が多い。昔からこの地域に住んでいる人ほど、連帯感が強く、住みよいふるさと作りを目指して、学校行事はもちろん、地域の行事へも協力的である。
- ・地域性：昭和40年代に開発された桜ヶ丘と川平の2団地を含む古い成熟した住宅団地で建築年数の経った建物も少なくない。団地内に中学高校大学が立地し、学生の多い文教地域である。桜ヶ丘、川平それぞれで防災訓練を実施しており、自主的にそれぞれの訓練に教師や生徒が参加している。
- ・東日本大震災時の地域の状況：学校は高台にあり、東日本大震災の際には建物の被害はほとんどなかった。学区内の建物は、築年数の古い建物が多く、全壊、半壊扱いになった家もある。震災時には隣の桜丘小が避難所になったが、中学校は開設させず、避難所運営については、未経験である。
- ・学区内の地理、自然環境：土地は第三紀層の丘陵地帯を切り崩して造成したため丈夫で地震に強い。団地は西側（桜ヶ丘1・5丁目等）が高く、東側（桜ヶ丘3丁目）が低い西高東低の地形である。近隣の水の森3丁目交差点では2014年9月のゲリラ豪雨により冠水、桜ヶ丘1・5丁目ですべり・床下浸水が発生した。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

- (自助) ・災害に関する正しい知識や対応方法を身に付けた生徒
 ・災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒
- (共助) ・災害時に進んで他の人や地域の力になれる生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・生徒自らが自助・共助の具体を学ぼうとする防災教育
- ・保護者や地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

- ・「災害が起きたときに、誰かのために役に立ちたい」と考える生徒が多い本校生徒が、自助の大切さとその具体について気付き、「もっといろいろなことを知りたい」と思うようになった。

5 実践の具体

- (1) 自分を守る（全学年 学級活動）避難訓練前の防災副読本の読み合わせ＜防災教育学習カード＞
- (2) 自分と自分を囲む環境について知る（全学年 学級活動）＜生徒実態アンケート＞
- (3) 防災・減災プログラム（全学年 総合的な学習の時間）防災コーディネーターによる体験授業（授業参観）
 - 1学年：①「PUSH」胸骨圧迫・AEDの使用法、
②「Myハザードマップを作ろう」
 - 2学年：「ぼうさい駅伝」防災クイズに解答しながら進める双六形式のゲーム
 - 3学年：「クロスロード」災害前後のジレンマを伴う決断と約束を守った意見交換と問題の作成

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画 (平成30年度)

桜丘中学校 第1学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳
	関連行事等				
4	・安全の決まりの確認 ・地区生徒会 ・避難経路の確認		・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	☆東北地方太平洋沖地震発生(1章①)	
5	・安全点検 ・校外学習 ・小中地域連携あいさつ運動		☆絆を力に一歩ずつ(2章①)		・4(8)郷土愛・先人への感謝
6	・安全点検 ・中総体 ・避難訓練(地震)			・避難訓練(地震・集団行動) ☆自分の身は自分で守る(4章②)	
7	・夏季休業中の安全指導 ・地区生徒会 ・川平地区夏祭り ・家庭訪問・教育相談		・防災教育学習カート		・地域行事への参加 ☆中学生の声助け合うってすばらしい(2章③)
8	・桜ヶ丘地区夏祭り				・地域行事への参加
9	・安全点検 ・桜花博覧会				・4(6)家族愛
10	・新人戦 ・避難訓練(火災) ・運動会 ・地区総合防災訓練	☆家庭のできる災害への備え(4章③:体育)	・避難訓練(火災・集団行動)		
11	・安全点検 ・地区清掃		小中合同地区清掃		・生徒アンケート ☆はじまり(5章②)
12	・安全点検 ・防災、減災プログラム ・冬季休業中の安全指導	☆3.11の地震を科学の目でとらえよう(3章②:理科)	・Myハザードマップ ・防災、減災プログラム	・胸骨圧迫・AEDの使用法	・3(2)自然愛・畏敬の念
1	・安全点検	・火をふく大地(理科) ☆知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(4章④:体育) ・心身の機能の発達と心の健康(体育)			
2	・安全点検 ・小中地域連携あいさつ運動	☆心の健康を守るために(4章⑤:体育) ・動き続ける大地(理科) ・大地の変化を読み取る(理科)			
3	・学校安全点検の評価と反省			☆防災知識をチェックしよう(6章①)	☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③) ・3(1)生命尊重

☆ 副読本活用

仙台市立 八幡 小学校

担当者 高橋 康一

1 学校・地域の実態 → 1, 4

- ・児童生徒：全校児童数は675名で、学級数は23学級（特別支援学級2学級含む）である。東日本大震災から7年が経過し、小学校で震災を経験した児童はいない。震災未経験の児童が増加していく中で震災の記憶が年々薄れてきている。
- ・保護者：本校出身者の保護者も多い。共働き世帯が多いが、学校行事や参観日などへの参加者が多く協力的である。
- ・地域性：昔からある四谷用水付近の住宅と新築の住宅が混在し、マンションも多い。30ほどの町内会があり、体育祭（5月）や町内会の防災訓練（10月）に参加しているが、世代や住んでいる年数により考え方は様々である。
- ・東日本大震災時の地域の状況：地震発生後、児童全員を無事に家庭に戻すことができた。避難所開設となり1200人ほどの受け入れをした。体育館だけでは足りず、西校舎1階も避難所として開放した。
（当時の教職員編集の八幡小学校震災時の記録集より）
- ・学区内の地理、自然環境：学区内には広瀬川が流れており、河原は良いが、水辺や川での遊びは禁止している。学校の南側は交通量の多い国道48号線、東側は道幅の狭い土橋通りがあり、道路の歩き方や渡り方を毎年指導している。

2 目指す児童生徒の姿 → 2

- （自助）自然災害に関する正しい知識を身に付け、災害時に危険を予測し、自分の命を守るために行動できる児童の育成。
- （共助）支援者として互いに協力し合い、地域のために進んで行動できる児童の育成。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・体験を通して知識を実践につなげる防災教育。

4 児童生徒の変容

- ・全学年が防災副読本を定期的に読むことで災害に対する関心が高まった。
- ・3、5年に着衣水泳を取り入れたことによって水の事故から身を守る方法を、体験を通して学ぶことができた。

5 実践の具体

- 小中の取組①・挨拶運動、陸上練習
 - ・八幡小の児童会と一中の生徒会が中心になって挨拶運動をしている。挨拶運動の日に一中の生徒数名が八幡小昇降口で八幡小児童と一緒に爽やかな挨拶をして登校する児童を迎え入れる。
 - ・陸上記録会に向けての練習期間中、一中陸上部が6年生に各種目のポイントを教えたり、模範演技を見せたりしながら交流をしている。
- 小中の取組②・防災読本タイム
 - ・東日本大震災を体験した世代が減っていく中で何か取り組めないかと相談して始めたのが防災読本タイムである。毎月1回時間を設定して5分間読書をする活動を積み重ねてきた。月予定にも入れて習慣化している。
- 防災の授業や引き渡し訓練、休憩時避難訓練
 - ・宮城県沖地震のあった6月に参観日と引き渡し訓練を実施している。参観日の授業は全クラス防災に関係するもの、その後引き渡し訓練へと流れる。引き渡しカードの記載事項を確認して引き渡す。
 - ・休憩時避難訓練は業間休み時間に地震が起きた設定で実施する。「まず、放送を聞くこと」「次に、避難場所に集合すること」の2段階で行う。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画(平成29年度版副読本使用)H30.5現在

仙台市立八幡小学校第5学年

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度		
学習内容		防災や災害に関する周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する直接的な内容	防災や災害に関する間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳	
4	・避難経路確認 ・戸口訪問(担任)		☆の印は, 防災教育副読本を活用する。	☆歩み出す力強く! (1章②)		
5						
6	・避難訓練(地震) ・引き渡し訓練 ・防災授業参観	・けがの防止(体育) ☆応急手当の方法と救急車の呼び方 (4章③: 体育)		☆災害時をくらすヒント (4章④)		
7	・着衣水泳	・できるようになったかな家庭の仕事(家庭) ・着衣水泳(体育)			☆希望の詩 ~「ない」~ (2章①)	
8						
9	・避難訓練(地震休憩中) ・野外活動	・台風と天気の変化(理科) ☆いろいろな自然災害 (3章②: 理科)	野外活動 校外での災害対応と野外炊飯			
10		☆心と向き合って (4章⑦: 体育)				
11	・避難訓練(火災) ・復興プロジェクト			☆立ち上がれ! ぼくらの復興プロジェクト(2章⑤)		
12		・情報を生かすわたしたち(社会) ☆災害時の情報手段 (3章③: 社会)				
1						
2				☆思いをかたちに (5章⑤)		
3	復興プロジェクト		☆復興への第一歩 (2章②)	☆防災知識をチェックしよう (6章①) ☆仙台の自然災害年表 ・復興年表 (6章③)		
指導時数9		体4社2理2家1	総2	学4	学2	道1

仙台市立 国見 小学校

担当者 菅原 浩一

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：住宅密集地であるため交通量の多い通学路を登下校している。読書活動・国際理解教育・体験活動を意識した学習の積み重ねで地域との関わりを深め、挨拶や助け合う心が少しずつ育ってきている。しかし、実際の避難行動は、指示待ちで、まだ身に付いていないところがあるため、自ら考え、行動できるように指導する必要がある。
- ・保護者：保護者の教育的関心は高く、引き渡し訓練等の学校行事への参加率も高い。協力的な家庭は多いが、地域的つながりは薄いようである。外国人が多いのも特徴である。
- ・地域性：古くからの住宅街と新しいマンションや住宅が混在している。東日本大震災では、連合町内会と連携していたが、学校との合同防災訓練等は実施していない。
- ・東日本大震災時の地域の状況：通学路に地割れ等による被害があった。連合町内会と連携し、学校は避難所として地域の防災の中心となった。
- ・学区内の地理、自然環境：学区内はアップダウンの多い地形で、広瀬川、葛岡に面し、貝ヶ森等広い学区を形成している。

2 目指す児童生徒の姿

2・4

- (自助) 災害に対する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童
- (共助) 非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

「防災意識を高める防災教育 ～自ら考えて行動できるように～」

4 児童生徒の変容

- ・年度初めよりも、避難訓練に取り組む態度が良くなった。短時間に素早く意識して行動できるようになってきた。緊急に行われた集団下校にも、慌てることなくきちんと対応していた。

5 実践の具体

(1) 「家ぞくぼうさい会ぎをひらこう」(3学年 学級活動)

総合的な学習の時間で、地域のことについて学習してきているので、地域の危険な場所の確認や避難場所の確認、その他、防災に関して様々なことを家族みんなで話し合うことの大切さを学習した。フリー参観に授業をすることによって、保護者の理解と協力を得ることができた。

(2) 仙台版防災副読本「3.11から未来へ」を月1回読む。(全学年 朝の読書タイム)

震災の記憶を風化させないためにも、防災意識を高めるためにも、毎月1回は副読本を読ませるようにした。

(3) 学習発表会において4年生が復興ソングをプログラムに取り入れた。

今年度音楽発表会に出演した4年生が、本格的に復興ソングの合唱に取り組み、学習発表会の場で披露した。復興ソングの継承という意味でも意義のある活動となった。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画

第3学年

☆は新防災教育副読本活用

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
4	交通安全教室 非常聞き取り訓練 (避難経路各確認) 避難訓練 (対地震)	わたしのまち みんなのまち (社会)			☆ひびんのし 方を考えよう (4章③学 活)		☆たった一つ のもの (1章 ③) ヌチヌグスー ジ (いのちの まつり)
5			国見のお宝じ まんをしよう	☆防災マップ をつくろう			
6	不審者対抗避難訓練 防犯教室 水泳安全指導	仙台市のよう す (社会) ☆地震につい て知ろう (3 章①理科)			☆家ぞくぼう さい会ぎをひ らこう (4章 ⑤学行)		
7	引き渡し訓練 復興プロジェクト	浮く運動・泳 ぐ運動(体育)			☆生きるため にひつような もの	夏休みのすご しかた(学活)	ごみステーシ ョン
8							
9	遠足	☆雨・風・か みなりについ て知ろう。(3 章③理科)	国見のお宝調 べたことをま とめよう				
10							
11	復興プロジェクト 避難訓練 (火災)	明かりをつけ よう (理科)			☆ぼうさい知 しきをチェッ クしよう (6 章①) 避難訓練事前 事後指導	じょうふな体 をつくろう (学活)	いただいたいのち ことぶき公園 に行ったよ
12		☆けがをした ときは (4章 ⑧体育)				冬休みのくら しかた(学活)	
1			☆たくさんの おうえん (5 章①)				
2		古い道具とむ かしのくらし (社会)				☆わたしたち にできること (5章⑤)(学 活)	おじいちゃん おばあちゃん 見ていてね ふるさといい とこさかし
3	復興プロジェクト				☆ふるさとを 元気に自分 たちができる こと (2章③ 学活)	春休みのくら しかた(学活)	

仙台市立 第一 中学校

担当者 庄子 英樹

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：素直で学習意欲も高く行事や授業に真剣に取り組むことができる。また、自らの目標に向かって努力しようとする姿勢が感じられる生徒が多い。
- ・保護者：保護者の教育への関心は高く、学校に対しても協力的である。
- ・地域性：藩政時代からの神社・仏閣、商店街と宅地、新しい高層住宅が混在している。町内会は防災に対して前向きで、中学校と連携して防災訓練を行ってきた。
- ・東日本大震災時の地域の状況：ライフライン復旧には時間がかかったが、大きな被害はなかった。
- ・学区内の地理、自然環境：狭い路地が多く、非常時の集団下校はやめて原則受け渡しになっている。また、急斜面や河川近くに住宅もあるので、洪水や土砂災害などの被害が想定される。

2 目指す児童生徒の姿

2・4

- (自 助) 災害に関する正しい知識や対処法を身に付け、自らの安全を確保できる力を育成する。
 (共 助) 日ごろから人々と関わり、非常時に進んで他の人や地域のために行動する姿勢を育成する。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- (1) 地域との協力 (2) 小中の連携 (3) 防災副読本の活用 等

4 児童生徒の変容

- ・地域の防災行事等に進んで参加することで、地域の方との接点生まれ、地域の中での役割が認識できた。また、小学生と協力して活動する中で交流も深まった。
- ・学校内外の防災に関する学習(活動)を通して、防災意識の向上が見られた。

5 実践の具体

- (1) 「非常時に進んで地域のために行動する姿勢」の育成(5年目)
- ・町内会主催の一中校区防災・避難所設営訓練に参加した。地域の方と協力して、避難所設営や物資の搬出入、応急処置訓練等を行った。毎年部活動単位で20～50名の生徒が参加し、非常時に中学生が地域の方と一緒にできることを考え、連帯感や防災意識の向上を図っている。
- (2) 「小中連携」学区内の2小学校(八幡小・国見小)と連携しての防災教育を行う試み
- 一中区防災・避難所設営訓練に小学生も参加し、非常時に小中学生が地域の方に協力できることを模索し、意識の啓蒙を図った。
- ・貝ヶ森市民センター主催の防災行事に小中学生が参加することで連帯感や防災知識を身に付けた。
 - ・安全マップの作成を通して、小中学生が同じ課題に協力して取り組む機会が得られた。
- (3) 学校内外での活動を通して、防災に関する知識と意識の向上を目指した。
- ・毎月11日に防災副読本「3.11から未来へ」の朝読書を行っている。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容を、教科等横断的な視点で組み立てること。
 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

第一中学校防災教育年間指導計画

第1学年

【副】:副読本を活用できる内容

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
	4	・校内安全点検 ・安全な登下校指導 と通学路の確認 ・避難方法と避難経 路の確認	・集団訓練(保体)				・東北地方太平 洋沖地震発生 【副】
5	・校内安全点検 ・連絡網の確認 ・校外学習事前指導 ・故郷復興プロジェ クト		・絆を力に一步步 【副】 ・校外学習集団訓練				
6	・校内安全点検 ・市中総体時の災害 発生への対応指導					・避難訓練(地 震想定) ・自分の身は自 分で守る【副】	4-(8)郷土愛 様々な自然災害に 備える
7	・校内安全点検 ・合唱コンクール ・避難所設営訓練		・交通安全教室	・避難所設営訓練参 加(小中連携)		・夏休みの生活	
8		・家庭でできる災害 への備え(保体) 【副】				・助け合うってす ばらしい【副】	
9	・校内安全点検 ・小学生陸上指導	・体育祭練習(保体)					
10	・校内安全点検 ・スポーツフェスティ バル	・スポーツフェスティ バル練習(保体) ・情報通信ネット ワークと情報モラル (技・家)【副】					
11	・校内安全点検 ・故郷復興プロジェ クト ・地域清掃	・住まいの安全対 策, 災害への備え (技・家)	防災講座(貝ヶ 森市民C)(小中 連携)			・避難訓練(火 災想定)	4-(2)つながり を持った住みよい社 会
12	・校内安全点検	・欲求不満やストレ スの対処(保体)				・冬休みの生活	
1	・校内安全点検 ・拡大地域清掃	・知っておきたい心 肺蘇生の方法とAE D(保体)【副】					4-(8)郷土愛 「ロックンローラー」高 齢者に尊敬と感謝の念 を深め郷土の発展に 努めようとする意欲の 育成
2	・校内安全点検 ・節分祭	・大地の変化, 地震を 科学の目でとらえよう (理科)【副】 ・こころの健康を守るた めに(保体)【副】					
3	・校内安全点検 ・東日本大震災追悼 行事					・防災知識を チェックしよう 【副】	2-(2)心のあたたかさ 「夜の果物屋」人は 関わり合いの中で生き ている。感謝と思いや りの心を育む

仙台市立 仙台青陵 中等教育学校

担当者 渡辺 勝浩

1 学校・地域の実態

1・2

- ・児童生徒：本校は仙台市全域から生徒が登校しており、下は12歳から上は18歳までの年齢層が1つの学校で生活している。遠くから登校する生徒が多く、公共交通機関を利用する生徒が多数いる。
- ・保護者：教育熱心な家庭が多く、学校行事や授業参観等の参加者率も非常に高い。また、学校教育に対して協力的な家庭が多い。
- ・地域性：隣接する町内会が2つあり、防災意識が高い。年に1度本校を会場に防災避難訓練をしている。また、本校教頭が、定期的に町内会長と連絡を取り合い生徒の通学路の危険箇所等を聞いて生徒の安全教育指導に役立っている。
- ・東日本大震災：特に大きな被害はなく、避難してきたのは地域外に居住の一家庭程度であった。
- ・学区内の地理、自然環境：地盤が固い。一部急傾斜があり、土砂災害危険箇所がある。

2 目指す児童生徒の姿

2・3

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付けさせ、災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全が確保できる自助の力を育てる。
- (共助) 災害後の対応や地域の復興に協力し、参画する共助の力を育てる。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・「自助力を高め、防災委員会を中心とした活動。」

4 児童生徒の変容

- ・防災訓練などを通して防災に関する知識や行動ができるようになってきている。また、文化祭での防災簡易トイレ等各種防災備品類の展示やパネル展示発表で防災意識を高めた。

5 実践の具体

- (1) 登下校の安全指導
 - ・緊急連絡用カード、帰宅方法調査による徹底した安全指導
 - ・指定避難所、地域避難場所の確認を各家庭で確認する。
- (2) 防災訓練の事前学習（生徒会活動【防災委員会の活用】）
 - ・防災訓練のねらい、頭部保護の重要性、避難のしかた等（前後期生）
 - ・放送部生徒の協力を得ながら防災に関する放送を流す。（前期生）
 - ・AED講習に職員と防災委員が合同で参加。（後期生）
- (3) 校内安全点検（前後期生）
 - ・学校内の危険箇所を生徒の目線で調べる。
 - ・文化祭での活動の発表（簡易トイレ等各種防災備品類の展示やパネル展示発表）
- (4) 防災ポスター作成（前後期生）
 - ・校内掲示

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

平成30年度 防災教育年間指導計画（1・5学年）

＜仙台市立仙台青陵中等教育学校＞

月	防災管理	組織活動	防災教育（防災学習・防災指導）	
	関連行事等		教科・総合	特別活動・道徳
4	・避難経路の確認 ・オリエンテーション合宿 (1年)		・前1 集団訓練(保体)	<input checked="" type="checkbox"/> 学校生活の安全のきまりの確認 <input checked="" type="checkbox"/> 登下校時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 危険箇所の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 「緊急連絡用(引き渡し)カード」及び「生徒帰宅方法調査」提出 <input checked="" type="checkbox"/> 「指定避難所」及び「地域避難場所」の確認 <input checked="" type="checkbox"/> 「緊急情報発表時(弾道ミサイル発射・着弾)における避難等に関する確認 <input checked="" type="checkbox"/> 「オリエンテーション合宿」時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 部活動安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 休業日の学校での過ごし方指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「復興に駆ける」(道徳・副読本§1-2)
	・土曜学習会 ・部活動登録 ・PTA総会 ・防災委員会		・全 避難経路の確認 (全教科)	
5	・体育祭・連休 ・土曜学習会・野外活動(2年) ・AED講習会(職員) ・防災委員会			<input checked="" type="checkbox"/> 「体育祭」時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 連休中の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「絆を力に一歩ずつ」(道徳・副読本§2-1) <input checked="" type="checkbox"/> 職・後5 防災委員AEDの使い方
6	・防災訓練・市中総体・県高総体 ・土曜学習会・職場安全衛生委員会 ・防災委員会・進研模試		・前1 「自分を守る」(総合・副読本§4-2)	<input checked="" type="checkbox"/> 災害発生時の対応と避難(地震・火災・弾道ミサイル) <input checked="" type="checkbox"/> 市中総体・県高総体参加時の安全指導
7	・土曜学習会 ・合唱祭 ・全校集会・県中総体・三者面談 ・防災委員会 ・夏季休業 ・夏期課外講習			<input checked="" type="checkbox"/> 「模擬試験」時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 夏季の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「合唱祭」時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 県中総体参加時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「助け合ってすばらしい」(道徳・副読本§2-4) <input checked="" type="checkbox"/> 「夏期講習」時の安全指導
8	・全校集会・夏期課外講習・防災委員会			<input checked="" type="checkbox"/> 「青陵祭事前活動」時の安全指導
9	・青陵祭 ・土曜学習会・防災委員会			<input checked="" type="checkbox"/> 「青陵祭」時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「東日本大震災からの復旧・復興」(防災副読本§5-1)
10	・市中新人大会・終業式・始業式 ・秋季休業・学年保護者会 ・「秋に鍛えよう」 ・職場体験学習(2年)・進研模試 ・職場安全衛生委員会 ・土曜学習会・防災委員会		<input checked="" type="checkbox"/> 「安全な住まい」(家庭) <input checked="" type="checkbox"/> 「家庭でできる災害への備え」(総合・副読本§4-4) <input checked="" type="checkbox"/> 「地球のすがた」(社会)	<input checked="" type="checkbox"/> 「市中新人大会」時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 秋季休業前安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「災害ボランティアとしての活動」(副読本§4-3) <input checked="" type="checkbox"/> 「秋に鍛えよう」時の安全指導
11	・進研模試・土曜学習会 ・二者面談(前期) ・海外研修(5年) ・防災委員会			<input checked="" type="checkbox"/> 「天文台学習」時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「海外研修」時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「心を満たす食べ物を届ける」(道徳・副読本§5-1)
12	・土曜学習会・首都圏研修(4年)・冬季休業 ・課外講習・防災委員会 ・『防災ポスター』作成			<input checked="" type="checkbox"/> 冬季の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「冬季休業」時の安全指導
1	・生徒臨時休業日・天文台学習(1年) ・大学入試センター試験・進研模試 ・土曜学習会・防災委員会		・前1 「活動する大地」 (理科)	<input checked="" type="checkbox"/> 「生徒臨時休業日」の安全指導
2	・新入生保護者説明会・科学館学習(2年) ・土曜学習会・卒業式予行 ・同窓会入会式・防災委員会			<input checked="" type="checkbox"/> 雪害に備える防災・安全指導
3	・卒業式・研修旅行(3年) ・ファイナンスパーク(2年) ・職場安全衛生委員会 ・学校安全点検の評価と反省 ・修業式・土曜学習会 ・防災委員会・『防災新聞』発行 ・学年末休業			<input checked="" type="checkbox"/> 「式典」時の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 登下校中の安全指導 <input checked="" type="checkbox"/> 「学年末・始休業」時の安全指導

仙台市立 田子 小学校

担当者 牛草 学

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：実際に津波被害を受けた児童が高学年に在籍している。一方で、震災未経験の児童が入学する時期を迎え、記憶や伝承の風化が加速度を増してきた。近年の自然災害が、自分たちの地域で起こり得る事実に関心を向ける機会も限られている。
- ・保護者：仕事を持つ保護者は多いが、平日に行われる引き渡し訓練に対して協力的であり、訓練の必要性を理解している。他地域からの転居世帯も多く、近年に本地域で発生した水害を経験していない世帯も少なくない。
- ・地域性（合同訓練等）：復興住宅のある地域で、津波被害にあった住民が多数住んでいる。本校を指定避難所とする町内会は5つあり、避難所運営マニュアルの整備や町内会代表者との事前協議も行われている。地域防災訓練に本校も参加しているが、避難所開設の訓練には至っていない。
- ・東日本大震災：学校の沿革には、停電・断水・ガス停止・電話不通といった当時の状況が記されている。また、3月11日～22日にかけて、学校避難所が開設されたことが分かる。津波被害を受けた転入児童が多数おり、現在も在籍している。
- ・学区内の地理、自然環境：七北田川と梅田川の合流点に近く、かつては水害が頻発した地域である。国土地理院の治水地形分類図によれば、古くからの宅地は自然堤防上にあるが、その他の新しい宅地は氾濫平野となっている。地盤も軟弱であることが予想され、地震による被害も大きくなる傾向にあると言える。

2 目指す児童生徒の姿

1・4

(自助) 自分の命を守り、安全を確保する児童の育成

(共助) 災害後の対応や地域の振興に他の人と協力して参画する児童の育成

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

教育活動全体（教科、特別活動、学校行事等）を通じた防災教育

4 児童生徒の変容

【災害対応能力の向上】地域で過去に発生した災害を知り、自然的特性から地域を見つめ直す学習を経験した。
 【地域防災訓練での実践】地域防災に貢献する人々と交流し、災害後の対応訓練や防災資源の見学ができた。

5 実践の具体

(1) 『低い土地の暮らし』（5学年 社会科）

本単元は、『高い土地の暮らし』といずれかを選択する領域である。河川の氾濫による洪水が危惧される地域であることから、本単元を選択した。主に輪中地区について学習したが、学区域と共通する社会的事象を適宜取り上げた。例えば、地形の特色や近年の水害、貯水施設や排水ポンプ場である。写真や話題の提示に留まり、事後に継続して児童自身が活用できる具体的な学習成果物は残せなかった。

(2) 『防災手帳を作ろう』（5学年 学級活動）

上記(1)の課題を踏まえ、11月4日、地域防災訓練が実施される際の防災教育授業（授業参観）を実践した。外部支援団体（社会応援ネットワーク）から提供された防災手帳を活用し、地域で起こりやすい災害や地域で過去に起きた災害を話し合い、手帳に記入させた。また、災害時の心得として風水害を取り上げ、状況によって具体的にどのように行動するかを考え記入させ、各自の対応の仕方を発表し共有した。本実践の成果は、学習成果物が残せたことと学習の様子を保護者が参観したことである。課題は、指導資料は蓄積できたが、防災手帳の再配布はなく、ダウンロード利用となることである。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
月	学習内容	防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳		
4	・学区・通学路の安全確認 ・避難訓練(避難経路, 避難場所確認) ・Jアラート対応訓練				◇登下校の安全 ◇避難訓練(避難経路の確認→事前・事後指導)		※あいさつ運動(通年)
5	・故郷復興プロジェクト ・田子を明るくするあいさつ運動 ・学校ボランティア防犯巡視員紹介 ・緊急時児童引き渡し訓練					・縦割活動(異学年交流)	・「お父さんは救命救急士」C-14勤労, 公共の精神
6	野外活動 ・交通安全 ・地震, 荒天時の対応	・けがの防止(体育) ☆応急手当の方法と救急車の呼び方(4章⑦: 体育)	・野外活動		・緊急時児童引き渡し訓練(事前・事後指導) ☆災害時をくらすヒント(4章⑥)		・「ノンステップバスのできごと」B-7親切, 思いやり
7	・復興プロジェクト(七夕飾り作り)	・できるようになったかな家庭の仕事(家庭) ・着衣水泳(体育)				・夏休みの生活	・「ばあちゃんが残したもの」D-19生命の尊さ
8	(地域行事へ参加)					地域行事への参加	
9		・台風と天気の変化(理科) ☆いろいろな自然災害(3章③: 理科)			・生きるために必要なもの【防災副読本4章⑨】		
10		・流れる水のはたらき(理科) ☆心と向き合って(4章⑧: 体育)			・防災リュックを用意しよう【防災副読本4章⑥】		
11	・授業参観→地域防災訓練 ・避難訓練(火災想定) ・故郷復興プロジェクト ・田子を明るくするあいさつ運動				◇避難訓練(事前・事後指導) ☆立ち上がれ! ぼくらの復興プロジェクト(2章④)		・わたしのボランティア体験」C-14勤労, 公共の精神 ・「コースチャぼうやを救え」D-19生命の尊さ
12		・情報を生かすわたしたち(社会) ☆災害時の情報手段(3章④: 社会)				・冬休みの生活	・「くずれ落ちた段ボール箱」B-7親切, 思いやり
1							
2							・「クマのあたりまえ」D-19生命の尊さ
3	・故郷復興プロジェクト ・防犯ボランティア感謝の会	・自然災害を防ぐ(社会) ☆津波のメカニズムと災害(3章②: 社会)			☆防災知識をチェックしよう【6章①】 ☆仙台の自然災害年表, 復校年表(6章③)	・春休みの生活	

仙台市立 高砂 小学校

担当者 村上 幸宏

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・児童生徒：現在の6年生は、震災当時においては未就学児である。1年生はまだ生まれておらず、震災は覚えているが、詳しい記憶は曖昧な児童が多くなっている。
- ・保護者：保護者の生活形態は都市型であり、古くからの住民と新しい住民の混在する地域である。東日本大震災では、学区の至る所で家屋の破損などの被害があった。教育に対する関心度は高い。
- ・地域性：大震災や大津波で福田大橋が崩壊した場合、学区が七北田川で二分される。
- ・東日本大震災時の地域の状況：津波が到達することはなかったが、学校は避難所として機能した。町内会によって、防災意識の差が大きくなっている。
- ・学区内の地理、自然環境：学区の中央を七北田川が、西側に梅田川が流れており、大雨時には、梅田川の洪水の恐れがある。また、隣接した学区（鶴巻小）は津波の被害を受けている。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童

(共助) 非常時に進んで他の人や地域の力になれる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

東日本大震災の課題を踏まえ、危機回避能力と進んで他の人々や地域の安全を支える自助・共助の力の育成

4 児童生徒の変容

- ・地域の人や中学生などと関わりながら活動をすることによって、防災の大切さや人との関わり大切さに気づき、自助・共助に対する考えを深めることができた。

5 実践の具体

・地域防災訓練への参加

これまで田子中学区の保護者、児童が参加していた地域防災訓練を、今年度は田子小、高砂小学校区に拡大し、11月4日(日)を授業日として、高砂小学校全児童が訓練に参加した。田子中学校区の児童保護者は高砂小学校に登校。防災の授業参観をした後、地区ごとに分かれ、各町内会が行う訓練に参加。高砂中学校区の児童は、9時に一斉メールで防災を伝え、児童保護者は高砂市民センターに避難。その後、学年毎に市民センターが企画した防災訓練に参加した。

・津波を想定した避難、引き渡し訓練の実施

6月23日(土)に一日授業参観日を設定し、津波警報発令の想定で児童は4階への垂直避難を行い、保護者は児童の引き取り、教職員は児童の引き渡しの訓練を、引き渡しカードを使用しながら行った。

・高砂中学校区合同防災サミットへの参加

高砂中学校区小中4全角校による防災サミットに、児童会の代表児童が参加した。「防災ゲームを通して災害対応を学習しよう」という内容で、ゲームの中で防災に対する考えを深めたり、「震災の風化を防ぐためにできること」というテーマの話し合いで、これからも自分たちがすべきことを話し合ったりした。最後に代表児童による小中合同防災宣言を発表した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

高砂小学校防災教育年間指導計画

第5学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月		教科	総合		特活		道徳
4	・避難訓練 (避難経路確認) ・交通安全教室				・登下校の安全 ・避難経路の確認 B (1) D	☆歩み出す力強く(1章②) E (1)	
5	・集団下校訓練 ・学区民大運動会 ・自宅確認				・非常時下校体制確認 ・集団下校の仕方 B (1)		
6	・避難訓練(津波) ・引き渡し訓練 ・泉岳野外活動	・ケガの防止(体育) ☆応急手当の方法と救急車の呼び方(4章⑦:体育) B (3)		・野外活動時の災害発生への対応 D	・避難訓練事前事後指導 ☆災害時をくらすヒント(4章⑥) A, C		
7						・夏休みの生活(学活) E	☆希望の詩～「ない」～(2章①) F 2
8	地域行事への参加					・地域行事への参加 F (1)	・「友の命」【2(3)友情・信頼】 E (2)(3)
9		・着衣水泳(体育) B ・台風天気の変化(理) ☆いろいろな自然災害(3章③:理科) A					・「一ふみ十年」【3(2)自然愛・動植物愛護】 E (3)
10		・流れる水のはたらき(理科) A					・「くまのあたりまえ」【3(1)生命尊重】 E 3
11	・地域防災訓練 ・復興プロジェクト ・避難訓練(火災)				☆立ち上がり！ぼくらの復興プロジェクト(2章④) C ・避難訓練事前事後指導 A (3) D ・防災事前事後指導		
12	・集団下校訓練	・情報を生かすわたしたち(社会) B (2) ☆災害時の情報手段(3章④:社会) B (2)				・冬休みの生活(学活) E	
1							
2	・防災ボランティア感謝の会	「感謝の会」(行事) C (2) E (2)				☆Heroes 2011Japan (5章⑤)	
3		自然災害を防ぐ(社会) ☆津波のメカニズムと災害(3章②:社会) A (2)			☆防災知識をチェックしよう(6章①) A, D ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③) A, D	・春休みの生活(学活) E	

☆副読本使用

仙台市立 田子 中学校

担当者 鶴沼 勝久

1 学校・地域の実態 → 1 - 4

1 学校・地域の実態

- ・児童生徒：震災による被災を受け、田子地区へ引っ越しをしてきた生徒もいる。そのため、津波の映像等や家族が震災で亡くなった生徒もあり、特段の配慮が必要である。
- ・保護者：父子家庭や母子家庭の世帯も多いが、学校行事へは協力的である。一方、被災等で引っ越しをしてきた家庭では、町内会とのつながりが難しい家庭なども多く見られてきた。
- ・地域性：町内会が14あり、それぞれの町内会で防災訓練を実施している。この防災訓練では、学校と連携をし、地区ごとの打ち合わせや当日の防災訓練の役割分担などを行っている。
- ・東日本大震災時の地域の状況：震災当時は大きな被害はなかった地域ではあったが、その後、地域内に復興住宅ができたため、被災を受けた家族が引っ越しをして来ている。
- ・学区内の地理、自然環境：学区内に田園地帯に位置し、七北田川と梅田川もあり、河川氾濫地域となっている。過去にも、福住地域や仙石地域では、床上までの浸水があった地域である。

2 目指す児童生徒の姿 → 2

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、災害時に冷静に判断し臨機応変に自らの安全を確保できる生徒
 (共助) 災害時に進んで他の人や地域の力となれる生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

学校と地域が連携をし、生徒が地域の一員として活躍する防災教育

4 児童生徒の変容

1・2年生は消極的であるが、3年生は3年間培ってきた成果の現れで地域の一員として活躍する姿が見られた。

5 実践の具体

(1) 9月7日(金) 防災講演会

- ・今年度は、田子市民センターとの共催で、静岡市危機管理室と静岡市清水区楠新田自治会の方をお呼びし、「みんなが学ぶ地域防災～中学生に期待すること～」と題して、講演をしていただいた。
- ・これにより、中学生は、11月に行われる防災訓練で、地域のために何ができるかを考える時間となった。

(2) 9月14日(金) 第1回防災訓練地区打合せ会

- ・人数の確認など、町内会の方と顔を合わせることで、当日スムーズに役割を果たすことができる。
- ・1年生は初めての生徒もいるため、当日の流れを確認する。
- ・防災副読本(p36今年度は自助がテーマ)を用いて、地域の方と一緒に学びます。
- ・一時避難所の確認をする。(この避難所が当日の活動場所となる)

(3) 10月12日(金) 第2回防災訓練地区打合せ会

- ・地図を用いて、自宅と学校の場所を確認し、通常の通学路を記入する。
- ・町内会の方を中心に、当日の流れと役割分担を確認し、分担する。

(4) 11月4日(日) 地域防災訓練

- ・朝は通常通り登校し、その後、町内会ごとに分かれ、役割分担の確認などを行う。
- ・町内会ごと、担当教師が先導し、集団下校を行う。
- ・それぞれの一時避難所で活動を行う。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

平成30年度 田子中学校 (3学年) 防災教育年間指導計画 (知識、技能、態度 の育成を目指して)

月	関 連 行 事	知 識		技 能		態 度	
		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
		教 科	総 合	特 別 活 動	道 徳		
4月	・校内安全点検 ・学校防災マニュアルの確認 ・避難経路の確認 ・緊急引き渡しカードの配布と集計	・集団訓練(保体)	・緊急避難の徹底と保護者への連絡網の確認		・危険箇所の確認	・絆タイム(人間係わりタイム)	・生命の尊重(3-1)キミばあちゃんの木
5月	・安全点検 ・町内会の所属確認 ・防災訓練懇話会①		・校外学習に向けての避難経路の確認	・災害時の安全な避難と備えについて		防災教育副読本(1章③)語り部として	
6月	・安全点検 ・避難訓練(火災) ・(避難所運営研修会①マニュアル読合せ)	・持続可能な社会(社会)			・中総体での安全指導 ・火災発生時の対応と避難について	・絆タイム(人間係わりタイム)防災教育副読本(3章④)地震に備えよう	・感謝の心(2-6)土曜の朝に ・避難時の約束について
7月	・安全点検 ・復興プロジェクト七夕飾り制作参加 ・教育相談週間			・防災マップづくり ・ボランティアと地域の清掃	・夏休みの過ごし方 ・通学路の安全	防災教育副読本(3章①)自然災害のリスクが高い日本	・思いやり(2-2)高砂丸とポトマック川のこと
8月	・安全点検 ・防災訓練実行委員会 ・救急体制の見直し	・水泳の安全(保体) ・心肺蘇生法(保体)				・絆タイム(人間係わりタイム)	・家族愛(4-6)スタチの苗木
9月	・安全点検(通学路を含む) ・避難所運営研修会(備蓄倉庫の確認) ・防災講演会 ・防災訓練打合せ会①(生徒+町内会役員)		・防災講演会(防災に必要な地域連携)	・地区との方と合同授業①(今できること、自助と共助)			・思いやり(2-2)月明かりで送った夜汽車
10月	・安全点検 ・防災道徳全校道徳 ・防災訓練打合せ会②(生徒+町内会役員) ・防災訓練実行委員会	・運動会集団行動(体育) ・地方の政治と自治(社会)		・地区との方と合同授業②(今できること、自助と共助)		・絆タイム(人間係わりタイム)防災教育副読本(5章④)情報に振り回されないために ・市復興計画を知る(2章⑥)	・全校集会…地域防災訓練と心構え
11月	・安全点検 ・第8回田子地区防災訓練【11月4日(日)】 ・緊急地震速報訓練 ・防災訓練アンケート(生徒、教師、地域) ・防災訓練実行委員会	・自然と人間(理)	・地震による津波の危険	・地域防災訓練、実践訓練の場 ・地域防災の参加とボランティア		防災教育副読本(5章①)がんばれ日本世界は日本とともにある	・生きる喜び/弱さの克服(3-3) ・マララさんの生き方
12月	・安全点検(避難所として開放する場所の点検)	・これからの私と家庭(家庭) ・家庭と地域(家庭)			・冬休みの過ごし方 火の始末と火事(生徒指導) ・20年後の自分を考える	・絆タイム(人間係わりタイム)	
1月	・安全点検(通学路を含む) ・防災アンケートに基づく反省会	・自然の恵みと災害(理) ・地球環境問題(社)					・災害への備えと協力(地域の一員として)
2月	・防災訓練懇話会					・絆タイム(人間係わりタイム)振り返り	・郷土愛(4-8)ようこそ谷根千へ
3月	・安全点検 ・学校安全点検の評価と反省 ・共同型学校評価による評価		・復興プロジェクトの振り返り		・春休みの過ごし方	・防災教育副読本(6章①)防災知識チェック	・東日本大震災を経験して、教訓と備え

防災強化月間

仙台市立 榴岡 小学校

担当者 石川 巖

1 学校・地域の実態 → 1. 4

- ・児童生徒：決まった課題や与えられたことをきちんと行うことができる児童が多い。災害の情報について、防災副読本などの資料を通して学んでいるが、日常生活と関連させて、災害を自分のこととして捉える児童は少ない。
- ・保護者：緊急時引き渡し訓練に、積極的に参加する。また、校外学習の際には、見守りサポーターとして参加するなど、児童の安全確保に協力いただいている場面が多い。
- ・地域性：「共助の心」がしっかり根付いている。榴岡地区町内会連合会並びに宮城野消防署原町出張所、榴岡地区日赤奉仕団の方々と協力しながら、毎年地域防災訓練を行っている。
- ・東日本大震災：津波による被害や校舎建物への大きな被害はなかった。しかし、仙台駅に近く、人の往来が多い地区であったため、体育館には地域住民に加え、多くの帰宅困難者が避難してきた。
- ・学区内の地理、自然環境：JR仙台駅、榴ヶ岡駅、地下鉄宮城野通駅に近く、交通至便の地域である。近くには、広大な敷地を有する榴岡公園があり、近年は高層マンションが増え、若年人口が増えてきている。

2 目指す児童生徒の姿 → 3. 4. 5

災害に対する基礎的な正しい知識を身に付け、思いやりや優しさなどの感性を働かせながら、自分の生活をよりよいものにしていく。そのために、他者と協働したり、自分なりに試行錯誤したりして主体的に考え、表現、行動できるようにする。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・教科等横断的な視点を重視した総合的な学習の時間を中心とする防災教育
- ・実社会や実生活とつながりのある具体的な活動や体験を含んだ防災教育

4 児童生徒の変容

- ・災害の恐ろしさを実感し、自分たちにできることや課題など、防災や減災についての関心が高まった。学んだことや思いを身近な人たちに伝えていきたいなど、主体的に考える姿や意欲的に学ぼうとする児童が多く見られるようになった。
- ・避難訓練などの意義を改めて理解し、目的意識を持って臨むようになってきた。

5 実践の具体 (第5学年)

(1) 「密着！地域防災訓練って何？」

6月：榴岡地区町内会連合会防災訓練
BFCの一員として訓練を補助する活動や、訓練に携わる消防署員と地域の方々へのインタビュー、訓練の様子を取材する活動を通して、災害が起きたときの対応について知る。



(2) 「災害発生！さあ どうする？」

10月：仙台青年会議所主催「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」
ワークショッププログラムに沿って、「自助・共助・公助」について考える。
地域防災ツール「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」を知る。



(3) 「その時 荒浜に何が起こったのか？」

12月：「震災遺構 仙台市立荒浜小学校」「津波避難タワー」見学
荒浜地区の被害の大きさ、復興や防災の取組を知る。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

平成30年度 防災教育年間指導計画（5年）

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域	教科	総合	特活	道徳
	関連行事等				
4	1・2年交通教室 放送を聞く訓練 第1回避難訓練 (地震・授業時)		◎セイフティープロ ジェクト福岡 ○テーマを知り、見 通しを持つ	※登下校の安全 ※避難経路の確認 ※非常時下校体制の 確認 ※避難訓練事前事後 指導	○新しい学年を 迎えて (その他の内容) ☆歩み出す力強く (1章②)
5	第2回避難訓練 (地震・休み時間対 応) BFC開講式 引き渡し訓練 防犯訓練		○災害を知ろう	○野外活動時の災害 発生時への対応	
6	避難訓練 (校舎内への避難) 防災教室 修学旅行 福岡地区防災訓練	○けがの防止(体育) ☆応急手当の方法と 救急車の呼び方 (4章⑦・体育)	◎自然となかよし	○防災訓練の参加	☆災害時をくらす ヒント(4章⑥) ※避難訓練事前事後 指導
7	野外活動 BFCチャレンジ教室 (地域行事への参加) 故郷復興プロジェクト (七夕飾り)				○楽しい夏休み (その他の内容) ☆希望の詩 ～「ない」～ (2章①)
8					○地域行事への参加
9		○着衣水泳(体育) ○台風と天気の変化 (理科) ☆いろいろな自然災害 (3章③・理科)		○水害の恐ろしさ・ メカニズム ○防災(水害から守 るための取り組み)	○命のアサガオ 3-(1)生命尊重
10	放送を聞く訓練	○流れる水のはたらき (理科) ☆心と向き合って (4章⑧・体育)	◎東日本大震災の災 害から学ぶ	○水害の恐ろしさ・ メカニズム ○防災(水害から守 るための取り組み)	○避難訓練 事前事後指導 ○2学期を迎えて (その他の内容)
11	第3回避難訓練 (火災・授業時)			○土砂災害に備える (砂防ダム)	※避難訓練事前事後 指導 ☆立ち上がれ!ぼくらの 復興プロジェクト (2章④)
12			○安心・安全な町つ くり	○人災を起こさない 工夫 ○荒浜小、津波タ ワー見学:語り部	○楽しい冬休み (その他の内容)
1		○家庭科(裁縫)わ くわくミシン		○地域の避難場所 ○裁縫	○生かされている “今”を大切に
2				○防災マップの作成	○稲むらの火で 命を救え 3-(1)生命の尊重 ○世界最弱のヒーロー、 アンパンマン 4-(2)公正公平・正義
3	BFC開講式	○(国語)○自然災 害を防ぐ (社会) ☆津波のメカニズムと 災害(3章②・社会)○ (音楽)	案内嬢作成	☆防災知識をチェック しよう(5章①) ☆仙台の自然災害年表 ・復興年表(6章③)	○もうすぐ6年生 (希望や目標をもって 生きる態度の育成)

※学級の時間等を活用 / ☆新防災副読本「3・11から未来へ」の活用

仙台市立 東宮城野 小学校

担当者 吉川 佳佑

1 学校・地域の実態 → 1・4

- ・児童生徒：東日本大震災で甚大な被害を被った児童はほとんどおらず，津波の被害に遭った地域の生活状況についてよくわかっていない児童が多い。また，地震以外の大きな災害も近年は発生しておらず，防災意識がやや低いと考えられる。
- ・保護者：地域と学校との合同防災訓練の一環として，引き渡し訓練を行っている。緊急時の防災意識としては高まっていると感じているが，参加しない家庭も若干数ある。
- ・地域性：合同避難訓練の際に避難所開設訓練を行っている。地区ごとに付近の公園に集合し，集団での登校訓練も実施しており，地域としての防災意識は高まっていると考えられる。
- ・東日本大震災時の地域の状況：浸水や家屋の倒壊などは見られなかった。地域住民の要求が多く，避難所の運営に窮した。また，荒浜小学校が併設され，本校で学習を行った。
- ・学区内の地理，自然環境：宮城野区卸町付近の地中は柔らかい土砂によって堆積された土地である。また，一方通路の道路が多く，ブロック塀が並んでいる箇所も多い。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・4

(自助) 災害から生命を守るのに必要な能力や資質の向上を図る。

(共助) 人としての在り方や生き方を考え，生命を尊重する心を育成するとともに，他者に対する思いやりや助け合いの心，ボランティア精神を養う。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

総合的な学習の時間や学活を中心に，地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

模型を使った比較実験や液状化の簡易実験を行い，地震に際して起こりうる災害について実感を伴って理解を深めることができた。また，地域の土地の特徴について知ることによって，防災意識を高めることができた。

5 実践の具体

(1) 『しあわせな黄色いハンカチスクール』（6年 学級活動）

仙台青年会議所が主催する「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」の一環に取り組んだ。

- ①東北福祉大学「Team Bousaisi」が作成した絵本を教材に，防災士の三原則（自助・共助・協働）を学んだ。
- ②東北大学 災害科学国際研究所が開発した「防災スタンプラリー」を用いて，災害発生時や防災・減災のためにとる行動を出し合い，自助・共助に分類する防災ワークショップを行った。グループで選んだ理由を話し合ったり，友達の考えを共有したりできた。
- ③「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」についての説明を聞き，防災意識の再確認と有事の際に掲げることで迅速な安否確認ができることを学んだ。

(2) 『地域の防災を考えよう』（6年 総合的な学習の時間）

(株) 応用地質（地質担当の部署）から講師を迎え，防災の特別授業を2日間行った。授業では，災害の種類やそれぞれに対する対応について学び，自分たちでできる防災について理解できるようにした。さらに地震についての基礎的事項について学び，建物の揺れやすさについて模型「紙ぶるる」を使ったり，液状化の簡易実験を行ったりして，理解を深めることができた。また，学区周辺の土地の成り立ちや利用の変化などを知り，地震時の地盤挙動の特徴などをまとめる作業を通じて，観察力，考察力，表現力を養うきっかけとなった。その後，特別授業で学んだことを踏まえ，今後自分たちに必要な防災についてまとめ，発表を行った。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき，平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を，教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し，その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

東宮城野小学校防災教育年間指導計画6年

月	防災安全関連行事	教科	道徳	特別活動他	防災副読本の活用
4	交通安全教室 集団下校訓練			登下校の安全 避難経路の確認 避難場所の確認・知	その向こうに(道徳) ・態
5	交通教室 防犯教室・不審者対応訓練 地震想定避難訓練			自分の身は自分で守る・技	大きな災害と人間の心の動き (学活)・知
6	地域合同防災訓練 引き渡し訓練	新聞の投書を読み比べよう (国)・態		おそろしい地震 避難の仕方・技	家族防災会議を開こう(学行)・態
7	あけぼのまつり	わたしの意見を書こう(国)・態	命の重さはみな同じ(生命)・態	役割と協力の大切さ 夏休みのくらし 地域行事へ参加 (卸商夏祭り・地域祭り)・態	
8					
9	休憩時地震想定避難訓練			自分の身は自分で守る 自分のよさ、友だちのよさ・技	チャレンジ！子ども防災モニター(総合)・技
10		大地のつくりと変化(理)・知	お母さんへの手紙(生命)・態		地震のメカニズムを知ろう(理科)・知
11	火災想定避難訓練	地域の防災を知ろう(総合)・知		避難経路の確認 避難の仕方・技	地震を乗り越えようとした先人の知恵(総合)・知
12		災害から人々を守る(社)・知		冬休みのくらし・知	未来へつなぐ(総合)・態
1					人々をつなげる活動(総合)・態
2	学校ボランティア感謝の会	人と環境(理)・知	東京大空襲の中で(生命)・態	感謝を伝えよう・態	つながる～世界の国々と～(社会)・知
3	故郷復興プロジェクト			震災を伝えよう・態	

仙台市立 連坊小路 小学校

担当者 伊藤 翼

1 学校・地域の実態

1 - 3

- ・児童生徒：東日本大震災の経験から、津波や大きな地震に対する避難訓練へ意欲的に取り組んでいる。今年度、震災を経験していない1年生が入学し、発達段階に応じて災害に対する自助・共助の力を育てていくことが必要である。
- ・保護者：共働きの世帯が多いが、学校行事へ協力的な家庭が多い。地区下校訓練等への協力体制が整っている。
- ・地域性：教育尊重の伝統を受け継ぐ学区民、PTAはもちろん同窓会、町内会、体育振興会等揚げて教育に深い関心と理解がある。学校教育、PTA活動の運営に協力的である。
- ・東日本大震災時の地域の状況：震災による建物への被害は少なく、比較的復旧の早い地域だった。
- ・学区内の地理、自然環境：仙台市中心部に位置している。学区内には、仙台第一高等学校や仙台二華高等学校をはじめとする文教施設があり、教育への関心が高い地域である仙台駅東口の開発、地下鉄東西線の連坊駅ができ、寺町が変貌しつつある。

2 目指す児童生徒の姿

1 - 3

(自助) 自ら危険を予測し、自ら命を守り抜くために主体的に行動できる児童
 (共助) 進んで他の人々や地域の安全・安心のために役立つことができる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・地域の特徴を知り、適切に行動できる防災教育（幅広い防災対応力）
- ・震災の教訓を生かした防災教育（総合的な学習における位置付け）

4 児童生徒の変容

- ・地域の実情を説明し、実際に災害が起きた場合を想定して訓練に取り組むことができるようになった。
- ・震災について詳しく知ることで、災害の恐ろしさを知り、災害への備えの必要性を感じるようになった。

5 実践の具体

(1) 実践力を高めるための避難訓練（全校）

学校周辺での火事が数件発生した実情を基に、地震に伴って起こる火災も含めた避難訓練を実施した。

実際の訓練では、一次避難として校庭へ避難した。その後、周辺で地震に伴う火災が発生したことを想定し、隣接する二華高校校庭への二次避難へと移行した。



(2) 『レインボープロジェクト』（6学年 総合的な学習の時間）

被災した地域の方々との様々な交流を通し、「命の尊さ、郷土を愛する気持ち、防災への意識、復興に向けて」について考える学習を行った。

- ① 震災についてのお話を聞く会
- ② 被災地訪問
- ③ 学習のまとめ



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況进行评估し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画 6年生

1 目標

- 災害発生時には、自ら危険を予測し、自己の生命を守り抜くために必要な行動を主体的にとることができるようにする。
- 災害発生時には、家族や友達、地域の方と助け合うと共に、ボランティア活動に進んで参加できるようにする。
- 大規模地震や津波などの発生メカニズムやそれらに備えた地域の防災体制の仕組みや役割を理解し、活用できるようにする。

2 自助・共助の具体的な児童像

自助：生命を守るために、得た知識を活用し、情報を的確に判断し、迅速に行動できる児童
 共助：避難所における炊出しや清掃など、自分にできることを進んで行う児童

3 指導計画

防災対応力の構成要素		知識	技能	態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳
4		体育 「集団行動」		学活 「学校の約束」 歩み出す力強く！（1章②）	
5	・家庭訪問 ・引渡訓練	国語 「イースター島にはなぜ森林がないのか」	立ち上がれ！ぼくらの復興プロジェクト（2章①）		命の重さはみな同じ
6	・避難訓練（地震） ・地区下校①		修学旅行	学活 「地震避難訓練」 災害時をくらすヒント（4章④）	
7				学活 「夏休みの生活」	土石流の中で救われた命 希望の歌～「ない」～（2章①）
8					
9			レインボープロジェクト 「仮設住宅の方々のお話を聞く会」		
10		外国語 Lesson5 Let's go to Italy 理科「大地の作りと変化」	復校への未知は続く（2章④）		
11	・避難訓練（火災）	理科 「てこのはたらき」		学活 「火災避難訓練」 広がれ、つながれ、みんなの思い（5章④）	お母さんへの手紙
12	・地区下校② ・避難訓練（地震） （業間）	社会「わたしたちの生活と政治」 理科「地震と津波のメカニズムと災害」（3章①）	レインボープロジェクト 「被災地訪問・見学」	学活 「冬休みの生活」	
1		家庭科 「考えようこれからの生活」 体育科「応急手当の方法と救急車の呼び方」（4章③）	レインボープロジェクト 「まとめ・発表」		東京大空襲の中で
2		社会 「世界の中の日本」 人をつなげる活動（5章②）			
3				学活 「春休みの生活」 防災知識をチェックしよう（6章①）	

※ は、防災教育副読本を活用した学習です。

仙台市立 東華 中学校

担当者 若生 知宏

1 学校・地域の実態 ⇒ 2, 4

- ・児童生徒：東日本大震災では、比較的被害の状況も少なめであり、防災・減災に対する意識の低下が見られる。地域での災害ボランティア活動の経験も少ない。
- ・保護者：学校教育への関心は高く、協力的である。
- ・地域性：戸建てと高層住宅が混在する地域で、学区は東西に広範囲である。毎年9月に、地域防災訓練を実施している。
- ・東日本大震災時の地域の状況：大規模な被害はほとんどなかった。地域住民をはじめ、仙台駅が近いことから多数の帰宅困難者も、本校体育館に避難してきた。
- ・学区内の地理、自然環境：仙台駅東側に位置し、学区はほぼ平坦である。周囲に大きな河川もないため、浸水による被害も想定されていない。

2 目指す児童生徒の姿 ⇒ 2, 4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時には冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒。
- (共助) 非常時に、進んで他の人や地域の力となろうとする心情や態度を有する生徒。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ①「かしわタイム（朝学習の時間）を活用した防災教育」
- ②「市、地域、消防、赤十字等と連携して実施した地域防災訓練」

4 児童生徒の変容

- ①「かしわタイム（朝学習の時間）を活用した防災教育」では、毎月11日前後に実施したことにより、東日本大震災の風化を防ぐとともに、災害に関する正しい知識を継続的に獲得することができた。
- ②「市、地域、消防、赤十字等と連携して実施した地域防災訓練」では、学年ごとに異なる体験を通し、非常時における臨機応変な対応の仕方や、地域の一員としての自覚を持つことができた。

5 実践の具体

- ①「かしわタイム（朝学習の時間）を活用した防災教育」では、2011年3月11日の東日本大震災の記憶を風化させないことを目的の一つとし、毎月11日前後の朝学習の時間「かしわタイム」に、15分間の防災に関する学習を行った。主に避難訓練の事前指導や仙台版防災教育副読本を活用した防災に関する講義を実施した。
- ②「市、地域、消防、赤十字等と連携して実施した地域防災訓練」では、1年生がアルファ米の炊き出し・水消火器を使った消火訓練を行った。2年生はバケツリレーにより初期消火訓練や、学校内の備蓄庫や消防設備を見学するスタディツアーを実施。加えて、一部の生徒は地域住民が行っている訓練に参加し、簡易トイレやプライベートルームの組み立て、発電機の操作方法について、市職員の方や消防隊員の方の補助を行った。3年生は、全員が90分間の救命救急講習を受講し、AEDの操作方法や、心肺蘇生法について学習した。昼食はアルファ米や非常食のカレーを食べ、午後からは集団下校訓練を実施した。



6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活		道徳	
	4	・オリエンテーション(防災教育) ・校外研修 ・Jアラート避難訓練(かしわタイム②)	・日本の様々な自然災害(社会)			★復興に駆ける(1章②) ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認(かしわタイム①)	
5	・復興プロジェクト						★助け合うってすばらしい(かしわタイム③)
6	・中総体 ・避難訓練(地震)(6/18)				・避難訓練(地震・集団行動)事前指導(かしわタイム④) ★自分を守る(4章②)②		
7・8	・校内合唱祭 ・夏季休業中の安全指導 ・家庭訪問						★花と緑で人々に笑顔を(2章⑥)
9	・東華祭 ・地域合同防災訓練(9/29)				・地域合同防災訓練事前指導(かしわタイム⑤)		
10	・運動会	・台風による被害(理科)					
11	・避難訓練(火事)(11/1) ・復興プロジェクト	★一人一人が災害に備える(4章①:家庭)			・避難訓練事前指導(かしわタイム⑥) ★地域の一員として(5章③)		
12		・前線とまわりの天気の変化(理科) ★様々な自然災害に備える(4章③) (かしわタイム⑦)					
1			★防災知識をチェックしよう(6章①) (かしわタイム⑧)				
2		★知っておきたい心肺蘇生の方法とAED(4章④:体育) ・傷害の防止(体育)					★約束(2章②)(かしわタイム⑨)
3	・予餞会					★仙台の自然災害年表・復興年表(6章③) (かしわタイム⑩)	

★ 副読本活用

仙台市立 南光台 小学校

担当者 成毛 富士雄

1 学校・地域の実態 → 1・3

- ・児童生徒：震災7年を経過した。また、仮設校舎で生活した児童は5、6年のみとなり、震災に対する意識が低下している。細道、坂道が多く、雨の際の登下校に気をつけるように指導をしているが、不注意な行動をする児童がまだいる。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、学校行事や引き渡し訓練に参加する保護者は多い。しかし、懇談会などへの参加は少なくなっている。
- ・地域性：南光台四条通りが学区の中心を東西に貫いている。また、北東部は国道4号線仙台バイパスがあり、両道路ともに登校時の交通量が多い。学校と地域との連携した防災訓練は行っていない。
- ・東日本大震災時の地域の状況：本校校舎、体育館の被害が大きく、児童は4つに分かれて授業することとなった。丘陵地に造成した団地なので、人工地盤で地割れが起こった場所がある。
- ・学区内の地理、自然環境：。仙台バイパスと七北田川に挟まれた地区は浸水想定区域となっている。また、学区中心の高台にあっても冠水から床上浸水の履歴が残っている。

2 目指す児童生徒の姿 → 1・4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、災害時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童
- (共助) 災害時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・地形を考慮し、災害特性に対応した教科学習内容の構成
- ・総合的な学習の時間を中心とした防災・減災教育

4 児童生徒の変容

- ・理科学習で、5学年では震災履歴マップを、6学年では地震時の校舎校庭の被害写真を使用し、避難行動で気を付けることを学んだ。
- ・土砂災害、減災の学習を通して、家庭での話が進み、防災用品の準備などをした家庭が増えた。

5 実践の具体

- (1) 5学年総合 防災学習にて『東北大出前授業 土砂災害・洪水・液状化』の学習
東北大災害科学国際研究所の先生による上記の授業を受けた。防災タウンページを家庭から持参するところから親子の話が始まった。授業では、「日本は土砂災害が1年に1000~1500件ぐらい起きる」「平成27年9月11日に七北田川に避難警報や勧告がだされたこと」「液状化の仕組み」などを学んだ。授業後、避難について話し合ったり、防災用品を準備したりした家庭が増えた。
- (2) 5学年総合 防災学習にて『東北大減災ポケット 結プロジェクト』
山間部 防災・減災のポイントー災害への備えについて考えようーで、自分の思考・行動タイプが①自立②協力③支援のどれが優位なのかをスタンプラリーに取り組む中で学習した。また、それをグループで出し合い、互いのタイプが分かり合えた。家庭では、ハンカチをもとに、また、減災について話し合えた。
- (3) 6学年理科 変わり続ける大地 『副読本 地震と津波のメカニズムと災害』『仙台の自然』の併用
地震の起き方と、地震波形で、緊急地震速報が出る仕組みを学習し、速報や初期微動での行動を確認した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

南光台小学校防災教育年間指導計画

月	防災教育関連行事	5 年			
		教科	道徳	特活	総合的な学習
4	避難経路の確認 避難訓練(不審者) 学校点検 登校指導 安全点検	団集団行動 理天気変化		登下校安全 避難訓練事前指導 1章②歩み出す 力強く(学)	
5	★故郷復興プロジェクト 地域確認 防災器具の点検 登校指導	社国土地形	4「遠足のこどもたち」善悪の判断, 自律, 自由と責任 6「お父さんは救急救命士」勤労, 公共の精神	非常時下校体制確認	
6	避難訓練(地震) 引き渡し訓練 安全点検 心肺蘇生法研修 登校指導 地域確認(通学路)	体水泳 プールの約束 社国土気候	9「ノンステップバスのできごと」親切, 思いやり	避難訓練事前指導 4章④災害時をくらす ヒント(行)	
7	学校配備品の確認 かっぱ教室 安全点検 登校指導 防災協議会(婦人防火クラブ・体育館)	体水泳 保けが防止	11「おばあちゃんが残した物」生命の尊さ 2章①希望の詩 ~「ない」~(道)	夏休みの安全指導	野外活動 災害発生時の対応
8	安全点検	体水泳 理天気変化(台風)	規律の尊重	登下校安全	
9	安全点検 登校指導 着衣水泳(4年生) 放送を聞く訓練 避難訓練(火災・業間)安全点検 登校指導		14「これって『けんり』? これって『義務』?」規則の尊重 16「お父さんのおべんとう」家族愛, 家庭生活の充実		
10	安全点検 登校指導	家元気な毎日と食べ物 理流れる水の働き	18「オーストラリアで学んだこと」礼儀		4章⑦心と向き合って(他)
11	★故郷復興プロジェクト 安全点検 避難訓練(火災) 登校指導	国森林のおくり物	21「わたしのボランティア体験」勤労, 公共の精神 24「コースチャ坊やを救え」生命の尊さ	避難訓練事前指導	防災講座(消防署) 2章⑤立ち上がれ!ぼくらの復興プロジェクト(行)
12	安全点検 登校指導		26「くずれ落ちた段ボール」親切, おもいやり	冬休みの安全指導	我が家の防災調べ 我が家の防災マニュアル
1	安全点検 登校指導	保心の健康 社情報を生かす	28「親から子へ, そして孫へ」と伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	登下校安全	学校の備蓄調べ 防災マップ作り
2	安全点検 登校指導	社森林と環境	31「同じ空の下で」国際理解, 国際親善 32「友の命」友情, 信頼 33「一本松は語った」感動, 畏敬の念		町内会との情報交換 3章③災害時の情報手段(社)
3	安全点検 登校指導 ★故郷復興プロジェクト	社自然災害を防ぐ	35「バトンをつなげ」よりよい学校生活, 集団生活の充実	自助・共助 春休みの安全指導 6章①防災知識をチェックしよう(学) 6章③仙台市災害・復興年表(学)	5章④広がれ, つながれ, みんなの思い(学)

仙台市立 南光台 中学校

担当者 早坂 文宏

1 学校・地域の実態 → 1・2・(4)

- ・ **児童生徒**：震災の地震の揺れや津波の報道等について記憶が明確でない生徒が多い。3年生・2年生は本校校舎を借りて授業を受けた。しかし、避難所生活や不便な生活を想像するのは困難である。
- ・ **保護者**：団地のため、勤務地が地域外である保護者がほとんどであり、共働きの家庭の割合が多い。学校や地域の行事、PTA活動に理解のある保護者もいるが、年代的な特徴なのか、全体的に意欲が低く、コミュニケーションに消極的である。
- ・ **地域性（合同訓練等）**：町内会ごと地区清掃等を行っている。しかし連合町内会として日程を合わせられないなど、統一感に欠ける。（再来年度の合同防災訓練実施に向けて動き始めている）
- ・ **東日本大震災**：学区内の小学校は校舎が損壊し、児童は長期にわたり本校校舎で授業を受けた。全壊家屋も見受けられた。
- ・ **学区内の地理、自然環境**：丘陵地とその下の沢沿いに広がる団地である。道が細く路肩がしっかりしていない箇所もあり、斜面上の道を通学する生徒もいる。沢沿いは風水害の心配もある。

2 目指す児童生徒の姿 → 2・(4)

- (自助) 防災や危機対応に関する知識をすすんで身に付けようとし、非常時に臨機応変に身の安全を確保しようとする生徒
- (共助) 災害発生時のみならず普段から他者とどのように関わり合い、地域の力になればよいかを考えようとする生徒

3 年間指導計画上のポイント

- ・ 仙台版防災教育副読本による考察と「きずな Week」のグループエンカウンター
- ・ 防災の在り方と、それを支える地域のつながり
- ・ 風水害の心配がある箇所の調査と結果の共有

4 児童生徒の変容

- ・ 防災について常日頃から考える意識が高まった。避難訓練時の真剣さが増した。
- ・ 学年・学級・部活動で、多くの生徒が誰とでも分け隔て無く接しようとするようになった。

5 実践の具体

- (1) 農村地域のつながり（野外活動の農家民泊）
本校学区とは違う暮らし・生き方の中で大切にされてきたつながりと、そこに立脚した防災意識・取組について話を聞き、事後のまとめに記した。自助・共助について考えを深めた。
- (2) 仙台版防災教育副読本の活用（道徳の時間、朝読書）
道徳の時間に、第5章4「心に寄り添う」で震災被災者の気持ちに寄り添えなかった筆者の体験から、思いやりのあり方について考えた。
朝読書の時間を活用し、第4章2「自分を守る」、第4章5「災害心理について学ぼう」、第3章5「古典に残る災害を読んでみよう」を読ませた上で助言し、自助の意識を高めようとした。
- (3) 「きずな Week」のグループエンカウンター（学級活動）
数人のグループで、心の距離が縮まるような遊びを行った。事後の生徒のコメントに、「児童館のボランティアでも使えそう」「お年寄りもできそうなものはいっしょに」などというものもあった。
- (4) 風水害の心配がある箇所の調査（アンケート）
保護者・地域の方々を対象に、昔の被害を含めて、学区内で心配な箇所を調査した。結果を文書にまとめ、生徒・保護者・地域の方々に提示し、情報を共有しようとした。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度		
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳			
4	避難訓練 集団下校訓練	集団行動 (保体) 世界の火山、地震 の分布(社会)	風水害の心配がある 箇所の確認・周知、 避難所の機能	安全な登下校 避難訓練 (自分の身は自分で 守る) 避難経路確認	行事・集会での整 列・点呼			
5	野外活動		野外活動事前学習 * 農村・漁村におけ る地域のつながり (近隣の関わり、防 災組織など)	野外活動事前 指導	第1回 きずなWeek			
6	市中総体			市中総体での 災害対応				
7	合同合唱コンクール 夏季休業の安全指導 家庭訪問 地域清掃			合唱コンク ールでの災害対 応、親子地域 清掃への参加				
8	南光台夏祭	安全な作業 (技術領域) 日本の山地 (社会)		地域行事への 参加	地域のつ ながり			
9	南中祭	火気の取り扱 い(家庭領域)						
10	体育大会	体育大会 の練習、 応急手当 の意義の 手順(保 体)				2-(2) 思い やり		
11	防災訓練 職場体験活動	自然災害 による傷 病の防止 (保体)	児童館や高齢者のいる 施設などでの「きずな」 づくり(防災の取組を 支えるつながり)	集団下校訓練 引き渡し訓練	第2回 きずなWeek	4-(10) 人 類の幸福		
12	火気使用開始 職場体験活動まとめ の発表会	防災都市 「神戸」 (社会)				4-(5) 奉仕 の精神		
1		大気の変 動と日本 の気象(理 科)	風水害の 心配な箇 所の調査、 お知らせ					
2		東北地方 「東日本 大震災か らの復興 と防災」 (社会)	↓ (次年度初め 確認・周知)	副読本の活用 第4章2・・・「自分を守る」 第4章5・・・「災害心理につ いて学ぼう」 第3章5・・・「古典に残る災 害を読んでみよう」				
3	故郷復興プロジェクト				東日本大 震災を振 り返る	4-(8) 郷土 の一員と しての自 覚		

仙台市立 泉松陵 小学校

担当者 桑田 洋輔

1 学校・地域の実態

2・4

- ・児童生徒：防災についての興味関心があるのは全児童の6割程度。「通学路の災害危険箇所」や「日本で起こりやすい災害」について、理解していると回答したのは全児童の5割程度。地域で起こりうる災害への理解はもちろん、自然災害全般に関しての知識・理解は不足していると思われる。
- ・保護者：多くの保護者は防災教育について重要だと考えている。しかし、「災害についての会話」「災害へ向けた備蓄」「家具の転倒防止」について、実施していると回答した保護者は6割程度であり、防災の活動が定着しているとは言えない。
- ・地域性：団地の造成からおよそ30年程度が経ち、シニア世代が多くなり始めている。地域の防災訓練では自衛隊や消防署と連携して訓練を行うなど、防災への取り組みには熱心である。
- ・東日本大震災時の地域の状況：大きな被害はなかった。児童の引き渡しも順調に進んだ。
- ・学区内の地理、自然環境：丘陵地。学区内に一部、土砂災害警戒区域がある。防災池もある。

2 目指す児童生徒の姿

2・4

- (自助) 正しい知識や対応方法をもとに落ち着いて考え、自らの安全を確保できる児童
 (共助) 地域の方々や同じ学校の友達の安全・安心のために行動できる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・仙台版防災教育における指導事項を意識して育てる防災教育の実践

4 児童生徒の変容

- ・上学年の児童の防災に関する興味・関心が高まった。
- ・下学年に「災害時にどう行動すればよいか」や「家族との待ち合わせ方」を覚える子が増えた。
- ・「災害から身を守ること」と「学区や地域の特色」の双方を関連付けて防災について学ぶ子が増えた。

5 実践の具体

○実践記録の記入と蓄積

年間指導計画にある授業について、「仙台版防災教育における指導事項のどの項目について実践したのか」と「授業を振り返ってどうだったか」を、実践記録として蓄積している。「教科授業への防災的内容の組み込み方」や「指導資料・指導方法」について蓄積したこの実践記録は、授業改善や指導の参考資料として新学年に引き継ぐことで、次年度以降のよりよい防災教育の展開を目指す。

○各種訓練の事前事後指導の徹底

11月の火災避難訓練では、例年とは火元を変えて、防火扉を閉じて訓練を行った。事前指導では火元と避難経路が関係あることを踏まえて、どの経路で避難すればよいかを児童に考えさせた。事後指導では、消火器の使用法や煙の危険性について、学年部ごとの児童の実態に応じて指導した。

○家庭・学区を意識した実践の強化

児童用の災害時アクションカードを導入したことにより、主に下学年の児童に対して自分の住所や親への連絡方法などについて理解させることができた。

地域合同防災訓練では、事前指導で副読本の「防災訓練に参加しよう」を全学級で行ったことで「災害」と「地域」を結び付けた状態で訓練に臨むことができた。訓練後半での授業は「避難所」と「ボランティア」についてとし、より災害と地域が児童の中で結び付くように指導の内容や順番を工夫して指導できた。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- ✓ 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- ✓ 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画

泉松陵小学校 第6学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域		教科	総合	特活	道徳	
	学校安全に関する 組織活動	防災関連行事					
4	地区巡視 交通安全指導 交通安全教室(低) (中・高) 避難訓練(不審者対応)	○通学路の確認 ○避難経路の確認 ○地域避難所の確認 ○災害時対応の確認			・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認 (B-1)自		☆その向こうに(1章3)(F-4)自
5	集団下校訓練	○消防用設備等の点検			☆大きな災害と人間の心の動き(3章⑤)自		・わたしたちの道徳かけがえのない命(3-1生命尊重)(F-2)共
6	心肺蘇生法研修会	○避難訓練(地震想定) ※授業中 ○引き渡し訓練		☆災害が起きたら(4章1)修学旅行・自主研修計画(B-1)自	・避難訓練事前事後指導(D-2)自		・車いすでの経験から(2-2思いやり,親切)(F-3)共
7	交通安全指導	○避難訓練(地震想定) ※業間			☆家族防災会議を開こう(4章4)(C-1)自	・地域行事への参加(E-4)共	・土石流の中で救われた命(2-5尊敬感謝)(E-2)共
8							
9			☆地震のメカニズムを知ろう(3章①:理科)(A-2)自				
10	交通安全指導	○学校防災の日 ・地域総合防災訓練参加 ・通学時避難訓練	・大地のつくりと変化(理科)(A-2)自		・救急救命講習体験 ・初期消火訓練見学 ・強風体験 ・自衛隊展示(B-3, C-2)		
11		○避難訓練(火災想定) ○通報訓練 ○消火訓練 ○消防用設備等の点検			・避難訓練事前事後指導(B-1)自		
12			・災害から人々を守る(社会) ☆震災から文化財を守りつぐ人々(A-4)共		☆冬休みの生活(4章2)(D-1)自		
1		○避難マニュアルの確認					
2							・東京大空襲の中で(3-1生命尊重)(E-3)共
3	・1年間の安全点検評価	○1年間の防災教育評価 ○次年度の防災教育計画作成			☆防災知識をチェックしよう(6章①) ☆仙台の自然災害年表・復興年表(6章③)	☆取り組みよう!ボランティア活動(5章③)学校に恩返しをしよう(F-3)共	・わたしたちの道徳社会のために力をつくす(4-4勤労社会奉仕)(F-3)共

☆ 副読本活用

仙台市立 松陵 中学校

担当者 川村 拓矢

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：震災を経験した年齢は4～7歳ぐらいであったが、恐かったということや、不便だったということの記憶は残っている。しかし、海から遠い地域ということもあり、甚大な被害を受けた生徒はいない。避難訓練への取り組みから、災害時にどのように身を守るかは理解している。今後も、災害時に地域の一員として役に立てよう共助の観点からの育成も必要である。
- ・保護者：教育活動への理解があり、協力的な保護者が多い。
- ・地域性：町内会が七つあり、地域総合防災訓練の際は、全ての町内会が中学校区の小学校に集まり、連合町内会として訓練を実施した。また、今年度は、消防署とタイアップした訓練も行った。今後も、学校としては、被災時を想定し、中学生自らができることの実地訓練も行うことが必要である。
- ・東日本大震災時の地域の状況：ほとんど被害がない地域であったが、一部半壊となる家庭があった。全壊にいたった家庭はほとんどなかった。小学校をはじめ、避難所となった施設は機能していた。
- ・学区内の地理、自然環境：学校と県民の森が隣接しており、大雨の際は土砂崩れが警戒されている。

2 目指す児童生徒の姿

1・2・3・

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒を育成する。
- (共助) 非常時に、進んで他の人の安全や地域の力になろうとする心情、態度を育成する。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・自らの安全を確保できる力を養う防災教育
- ・地域の力になり行動できる力を育成する防災教育

4 児童生徒の変容

- ・地震や火災を想定した避難訓練を行ったことで、発災時の初期対応の方法や、より適切な避難方法を身に付けた。
- ・地域防災訓練を通して、地域での中学生の役割を理解し、積極的に地域のために活動する生徒や活動しようとする生徒が増えてきた。

5 実践の具体

(1) 地震や火災を想定した避難訓練

避難訓練を2回行った。1回目の避難訓練の日は、想定する災害や発災の時刻を予め伝えて実施した。2回目の訓練は、想定する災害は伝えたが、発災の時刻は伝えずに実施した。2回目の訓練では、生徒がそれぞれがいる場所で、自分で判断し、行動することで有事の状況に近い形で実施できた。

(2) 地域防災訓練

生徒は、消防署員による指導の下 AED 訓練を行い、備蓄倉庫の点検や炊き出し訓練など、町内会が主体となった防災訓練を行った。

(3) 3学年混合防災学習

同じ地域に住む異年齢の生徒同士が、『電気が使えなくなった』などの場面を想定し、準備しておかなければならない物は何かなどの意見を出し合う話合いを通して、防災への意識を高めた。

(4) 東日本大震災の体験職員からの講話

生徒に『自助』について考えさせるきっかけとして、教師が、被災地での非常時の実体験を講話した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況进行评估し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

H30 松陵中学校防災教育 年間計画 第2学年

○重点目標

- ・災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、冷静に判断し自らの安全を確保できる力を養う。(自助)
- ・震災を経験してことを糧とし、命の大切さ、他を思いやる心、困難に打ち勝つ強い心、夢を持ち積極的に生活できる心を身に付ける。(心の教育)
- ・地域の一員として、非常時に進んで人や地域の力になり行動できる力を身に付ける。(共助)

防災対応力の構成要素		知 識	技 能	態 度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容	防災や災害に関する 直接的な内容	防災や災害に冠する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総 合	特別活動	道徳
4	・校内安全点検 ・安全な登下校指導 と通学路の確認 ・避難方法と避難経 路の確認 ・学校防災マニユア ルの確認 ・連絡網の確認 ・集会時の安全指 導、災害発生時の対 応	・「集団訓練」 (保体)	・野外活動に向けた取り組み(人 とのコミュニケーションの取り方、 緊急時対応)	・野外学習事前指導	「律子と敏子」 2-(3)
5	・校内安全点検 ・学校防災の日①	・日本の様々な 自然災害と防災 (地理)	・野外活動の実施とまとめ	・野外学習事前指導	「樹齢7千年の杉」 3-(2)
6	・校内安全点検	・「エネルギー変 換に関する技 術」(技・家)	・合唱練習	・市中総体での災害発生時の対 応指導	「迷惑とはなんぞ」 4-(2)
7	・校内安全点検 ・夏季休業中の安全 指導	・水泳「着衣泳」 (保体) ・実習「心肺蘇 生法」(保体)		・合唱コンクール (会場での安全指導・災害時の対 処について) ・教育相談(家庭訪問、三者面談) の準備	「リクエスト」 4-(3)
8	・校内安全点検	・「情報に関する 技術」(技・家)	・職場体験事前学習		
9	・校内安全点検	・運動会練習 (集団訓練)	・職場体験事前学習		「地下鉄で」 4-(2)
10	・校内安全点検 ・心とからだの健康 調査 ・学校防災の日②地 域連携防災訓練	・「九州～豪雨 による土砂くず れと水害」 (社会)	・マナー講習会 ・副読本(2章③)	・体育祭(集団訓練)	「輝かしい最後」 3-(2)
11	・校内安全点検 ・学校防災の日③	・AEDの使い方(保 体) ・副読本(4章⑥)	・職場体験学習	・教育相談(三者面談)の準備 ・副読本(2章④)	「命の重さ」 3-(1)
12	・校内安全点検 ・学校防災の日④	・コミュニケー ション能力「仙台 市や宮城県を紹 介する」(英語)	・職場体験発表会準備	・教育相談(三者面談)の準備	「最後の年越しそ ば」 2-(2)
1	・校内安全点検	・「天気とその変 化」(理科) ・副読本(4章③)	・職場体験発表会		「一冊のノート」 4-(7)
2	・校内安全点検	・確率「降水確 率、地震発生確 率」(数学)	・修学旅行事前調査		「校門を掘る子」 4-(7)
3	・校内安全点検 ・学校防災の日⑤	・「傷害の防止」 (保体)	・修学旅行事前調査		「三蔵の田んぼ」 4-(8) 副読本(2章②)

仙台市立 南材木町 小学校

担当者 長田 博史

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：素直に学習に取り組む児童が多く、避難訓練等に真剣に取り組む姿が見られる。反面、指示待ちの児童も多く、いざというときの判断力の育成が課題である。自ら考え、自ら安全を確保するための行動ができるように指導をしていく必要がある。
- ・保護者：共働き世帯が多いが、学校の取組への関心は高く、たいへん協力的な家庭が多い。町内会や子供会の行事への参加や協力も積極的である。
- ・地域：町内会の組織がきちんとしており、自主防災連合会の運営も意欲的・機能的に行っている。住民の防災意識は高く、地域総合防災訓練は、毎年1000人を超える参加がある。
- ・東日本大震災時の地域の状況：地下鉄の駅に近いこともあり、多くの避難者が押し寄せたが、自主防災連合会が十分に機能し、適切な避難所運営を行うことができた。
- ・学区内の地理、自然環境：仙台市旧市街地の南部、広瀬川の北東部に広がる地域である。平地で高台はない。近くに広瀬川が流れていることから、洪水浸水想定区域となっている。

2 目指す児童生徒の姿

2・4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる児童
- (共助) 非常時に進んで他の人や地域の力となれる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・「地域と連携した防災教育」

4 児童生徒の変容

- ・様々な災害時における対応について、詳しい知識や実際に生かせる技能を身に付けることができた。
- ・地域での避難や集団登校では、大人や上級生の指示に従って行動したり、下級生のお世話をしたりするなど、地域の一人であることを自覚して行動することができた。

5 実践の具体

(1) 『防災教育講座』（3学年 総合的な学習の時間）の実践

※地域総合防災訓練での取組

若林区中央市民センターから講師を招き、クイズ形式（『防災博士に挑戦！2018』）で、様々な災害時の対応等について学習をした。

飲み物の空ボトル（小サイズ）を水に見立てたバケツリレーを行った。

疑似体験ではあるが、実際の対応の仕方を知ったり、その大変さを実感したりすることができた。



【バケツリレーの様子】

(2) 『雨・風・かみなりについて知ろう』（3学年 学級活動）の授業実践 ※地域総合防災訓練での取組

「仙台版防災教育副読本第3章③」を活用し、災害につながる自然現象の種類やそれぞれに起こりうる災害について学習した。

あわせて、児童一人一人が自分自身の身を守れるよう、危険回避や避難の方法などについても考えた。

本学区が、風や大雨の際に、洪水が起こる心配がある地域であることから、正しい知識と判断力を身に付け、危険を察知する力が大切であることについて確認をした。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

第3学年 防災教育年間指導計画

南材木町小学校

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度	
学習内容		防災や災害に関する 周知的・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容	
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合		特活	道徳	
	4	・交通安全教室				・登下校の安全 ・避難経路の確認 ・非常時下校体制の確認	
5	・自転車安全教室 ・家庭訪問 ・避難訓練(不審者)	・わたしたちの まちみんなのま ち	・防災マップを つくろう		☆ひなんのし方 を考えよう(4章 ③)		・4(5)郷土愛
6					☆地しんについ て知ろう(3章①)		
7	・復興プロジェクト					・夏休みの生活	☆大切なこと(2 章⑤)
8	地域行事への参加 (夏祭り)					・地域行事への 参加	
9					☆自分できめる (4章④)		
10	地域行事への参加 (運動会) ・地域合同防災訓練 ・避難訓練(大雨・洪水) ・引渡訓練	☆雨・風・かみ なりについて知 ろう(3章③:学 活)	・防災について 詳しく知ろう ※若林区中央市民 センターと連携		☆家族ぼうさい 会ぎをひらこう (4章⑤) ・避難訓練事前 事後指導	・地域行事への 参加	
11	・復興プロジェクト ・避難訓練(火災)			☆ふるさとを元 気に自分たち にできること(2 章③)	・避難訓練事前 事後指導		・4(3)家族愛
12		☆けがをしたと きは(4章⑧:体 育)				・冬休みの生活	
1			☆たくさんのお うえん(5章①)				
2						☆つたえようわ たしたちのこと ばで(5章⑥)	
3	・復興プロジェクト				☆ぼうさい知し きをチェックし よう(6章①) ☆仙台のさい がい年ぴょう・ ふっこう年ぴょ う(6章③)		

☆ 副読本活用

仙台市立 若林 小学校

担当者 工藤 慶次郎

1 学校・地域の実態  1・4

- ・児童生徒：この4月に入学してきた1年生は、震災未経験である。他の学年も震災は経験しているものの、その記憶は薄れる傾向にある。また、状況に応じて自ら考え、安全を確保するための行動がいつでもできるよう、繰り返し指導していくことが必要である。
- ・保護者：防災訓練や引き渡し訓練への参加者は多く、協力的である。一方で、東日本大震災から7年が経過したこともあり、訓練時の緊張感や当事者意識が薄れる傾向が見られる。
- ・地域性：例年10月に、町内会・地域・学校が連携し、中学校区で防災訓練を実施している。また昨年度、若林学区防災協議会が発足し、訓練だけでなく実際の避難所運営等で、組織的でより円滑な活動が行われるものと期待される。
- ・東日本大震災時の地域の状況：建物等への大きな被害はなかった。避難所を利用する地域住民もそれほど多くなかったが、避難所運営については、再度検証していく必要がある。
- ・学区内の地理、自然環境：本校南側には広瀬川が流れており、河川敷公園が整備されている。水害・土砂災害ハザードマップでは、2m未満の浸水の可能性が示されている。地震による津波だけでなく、大雨等による河川の氾濫を想定した防災教育も必要である。

2 目指す児童生徒の姿  2・4

(自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に落ち着いて考え行動し、自らの安全を確保できる児童。

(共助) 非常時に進んで他人や地域の安全・安心のために協力できる児童。

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・「保護者や地域と連携した防災教育」

4 児童の変容

- ・防災訓練や防災に関する授業を通して、適切な対応方法を考えたり行動したりできるようになってきた。

5 実践の具体

(1) 仙台版防災教育副読本を活用した授業参観

地域防災訓練に合わせ、各学年で仙台版防災教育副読本を活用した授業を行い、保護者にも公開した。その中で3年生では「家族防災会議を開こう」の資料を使い、地震が発生したあとに持ち出す物として、どんな物が必要かをグループ毎に考え、オリジナルの防災リュックを作った。子供たちは、家族の構成や健康状況などによって用意しなければならない物が変わってくることや、常に見直しを図っていく必要があることに気付いていた。



(2) 「歴史を通して東日本大震災を考えよう」(4年・学級活動)の授業実践

本校が所在する若林区には、東日本大震災以前の地震による津波被害に関する痕跡がいくつかある。この授業では、まずクイズ形式で、杵形遺跡(地下鉄荒井駅付近)で見つかった2000年前の津波の砂や、浪分神社(若林区霞目)に伝わる津波に関する言い伝えなどを紹介した。そして東日本大震災の津波到達域を地図上で示し、今回の津波到達域が、昔の言い伝えとほぼ重なることを確認させた。子供たちからは、昔も同じような津波があったことへの驚きや、言い伝えなどを大切にしていきたいといった感想が聞かれた。またそれらを踏まえて、津波被害から命を守るためにどんなことをしたらよいか考えることができた。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

仙台市立 古城 小学校

担当者 朝倉 浩一

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：全校児童321名，家庭実数262家庭である。震災についての記憶はほとんどない児童が多い。震災により本学区に転居してきた児童は，現在4名。全校的に明るく活動的な児童が多く，あいさつ運動などに積極的に取り組んでいる。一方で，自主的に考え行動する児童は，まだまだ少ない。
- ・保護者：開校以来，保護者は教育について関心が高く，学校に対しても協力的でPTA活動も活発である。
- ・地域性：町内会が13，町内連合会が2つある地域である。平成26年には古城小学校区地域防災連絡協議会が設立され，毎年1回古城小学校区として地域総合防災訓練を実施している。
- ・東日本大震災時の地域の状況：震災当日は，1000名近くの避難者が本校に避難してきた。津波被害を受けた蒲生地区からも避難者がおり，4/9まで避難所を開設していた。避難所運営については，地域住民のボランティアが数多く集まり，順調に行われていたとのことである。
- ・学区内の地理，自然環境：仙台市の南東部に位置し，若林，古城，文化町，南小泉の4地区からなっている。学区東境付近には4号線バイパス，西境にはJR東北本線，東北新幹線が走っている。学区には土地が低く，過去に大雨により浸水した地域がある。学校の西側に広瀬川が流れており，平成29年度の水防法の改正により，最大規模降雨による洪水浸水想定区域に指定されている。

2 目指す児童生徒の姿

2・4

- (自助) 災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け，非常時に冷静に判断し，臨機応変に自らの安全を確保できる児童
- (共助) 非常時に進んで他の人や地域の力となることができる児童

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・「実践を想定した防災教育」

4 児童生徒の変容

- ・授業を実践することで，非常時の対応方法を深く考える児童が増えるなど，自助に関わる意識の高まりが見られた。
- ・防災について，家族で考えていこうという児童が増えた。

5 実践の具体

(1) 「経験したことのない大雨 その時どうする？」(4学年 学級活動)の実践

- ① 災害とは？
- ② 自然災害にはどんな災害があるだろうか？(防災教育副読本4・5・6年 P24, 25, 62)
- ③ 洪水浸水想定区域とは？(仙台防災タウンページ)
- ④ 「さあ！みんなで考えよう」(グループワーク)

- Q1 「台風が近づき，大雨が降り続いています。水は床下までできています。あなたたち家族は，避難しますか？しませんか？その理由は？」
- Q2 「大雨特別警報が発令され，あなたたち家族は，避難することになりました。どこへ何で避難しますか？その理由は？」
- Q3 「大雨特別警報が発令され，あなたたち家族は，避難することになりました。何を持って，避難しますか？その理由は？」

(2) 古城小学校区地域総合防災訓練体験学習(給水訓練)

- ・非常用飲料水貯水槽からのポンプでの汲み上げと，給水袋への給水体験。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき，平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿(目標)の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を，教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し，その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

第4学年防災年間指導計画

仙台市立古城小学校

○ 中学年部の目標

・災害時に起こる様々な危険について知り、自ら安全な行動ができる。

○ 防災対応力の構成要素及び道徳的価値			
知識=知	技能=技	態度=態	自助・共助の道徳的価値
◎ 防災や災害に関する周辺の・基礎的な内容	◎ 防災や災害に関する直接的な内容	◎ 防災や災害に関する間接的な内容	自助=A-(6) 希望と勇気 努力と強い意志 共助=B-(1) 親切・思いやり C-(3) 勤労・公共の精神

学期	学校行事 教科領域等	道徳	新防災副読本	復興プロジェクト	地域との 関わり
I	・ 集団下校訓練 5月	自助 A-(6) 希望と勇気 努力と強い意志 共助 B-(1) 親切・思いやり C-(3) 勤労・公共の精神	1章1 東日本大震災発生 P4-5 ○ねらい 4月 知 東日本大震災時の仙台市を中心とした被害の様子や市民の様子を知ること、防災や減災の学習の大切さに気付くことができる。	○あいさつ運動 地域の方と関わり合うことで、地域の一員だという自覚をもつ。 5月	・ 安全教室 ・ 子供集会 (児童会)
	・ 避難訓練 6月	○ぼくのへんしん (道徳) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやりぬこうとする態度を養う。 4月 A-(6) 希望と勇気 努力と強い意志	2章2 復興の第一歩 P12-13 ○ねらい 5月 知 技 復興へ向けて動き出した仙台市の取組をがれき処理や住宅確保を中心に調べさせ、さらには被災者の思いや生活のあり方を考える。	○心よせあい 星に願いを 仙台市震災復興に向けて心をつつにし、将来の仙台を担っていく意識の醸成を図る。 6月	
	くらしをまもる(社会) 知 6月	○なにかお手伝いできることがありますか? (道徳) 相手のことを思いやり、親切にする態度を養う。 6月 B-(1) 親切・思いやり	4章1 災害が起きたら P30-31 ○ねらい 6月 技 災害発生時に、自分の生命を守る(自助)ため、身近な人を助ける(共助)のために、自分の地区の指定避難場所や避難する際の行動について考える。		
	住みよいくらしをつくる(社会) 知 9月		3章1 地震と津波のメカニズムと災害 P22-23 ○ねらい 9月 知 技 津波発生時のしくみや津波による被害について学び、地震発生時の的確な判断や津波に対する備えについて考える。		
運動会 古城すずめ踊り 10月					
II	・ 避難訓練 ・ 引き渡し訓練 11月		5章3 取り組みもうボランティア活動 知 技 ○ねらい 11月 P50-51 ボランティア活動の意義を理解し、被災した人々のために自分ができるボランティア活動を考える。	☆復興プロジェクト 11月	・ 古城学区 地域防災訓練 (給水訓練)
	学習発表会 合唱・合奏 11月	○ゆうぎの心配 (道徳) 相手の置かれている状況や気持ちを考え、進んで親切にしようとする心情を育てる。 12月 B-(1) 親切・思いやり	4章7 応急手当の方法と救急車の呼び方 P34-35 ○ねらい 12月 知 技 災害時のいろいろな応急手当の方法を知る。119番救急車の呼ぶ時に伝えるポイントを理解し、助けを求めることができるようにする。		
	わたしたちの県(社会) 知 1月	○ポロといっしょ (道徳) 相手の身になって人を思いやり、進んで親切にしようとする態度を育てる。 2月 B-(1) 親切・思いやり	5章6 震災を乗り越えて P56-57 ○ねらい 3月 態 神戸市の復興や神戸市との交流について知り、将来地域を支える一人として大切にしたいことについて考える。	☆復興プロジェクト 3月	
			6章1 防災知識をチェックしよう 6章3 仙台の災害年表・復興年表 P58-63 3月 知 技 態 ○ねらい 一年間に学んだ副読本の内容について知識の確認を行い、学びを着実にするとともに、復興への歩みを確かめ、防災についてさらに学び続けていこうとする意欲を持つ。		

仙台市立 八軒 中学校

担当者 攝待 尚子

1 学校・地域の実態

1・4

- ・児童生徒：防災訓練では与えられた役割や指示に従って活動できる。地域のためにはたらくことについては前向きな生徒が多いが、自ら進んで関わろうとする生徒は少ない。震災では地域に大きな被害がなく、生徒の災害に対する意識は低下している。学区外通学する生徒も一部いる。
- ・保護者：何世代にもわたり居住している家庭と転勤等で移住してきた家庭が多い地区が混在する。学校行事やPTA活動に理解を示し、協力的な家庭がある一方で、教育活動に関心の低い家庭も見られる。
- ・地域性：小学校区（南材・若林・古城）ごとに自主防災組織があり、地域主体の防災活動が行われている。自主防災組織を中心に住民、学校、消防などが連携して総合防災訓練が実施されている。また八軒中学校区総合防災訓練連絡協議会を通じて各区の取組を互いに検討し、中学校区として防災意識の高揚や活動の拡充を目指している。
- ・東日本大震災時の地域の状況：家屋への被害は比較的小さかった。中野地区から避難者の受け入れを行った。本校に開設された避難所では南材地区の自主防災組織が運営に大きく貢献した。
- ・学区内の地理、自然環境：幹線道路や地下鉄沿線の交通量の多い道路がある一方、住宅地付近では狭く、人通りの少ない道も多い。また広瀬川や七郷堀があり、学区の大半が大雨による洪水浸水想定区域（0.5m～3m以上）に指定されている。

2 目指す児童生徒の姿

2・4

- （自助）災害に対する正しい知識や対応方法を身に付け、非常時に冷静に判断し、臨機応変に自らの安全を確保できる生徒
- （共助）非常時に進んで地域の力となろうとする心情や態度を持つ生徒

3 目指す児童生徒の姿に迫る年間指導計画作成上のポイント

- ・地域と連携した防災教育

4 児童生徒の変容

アンケート等の記述から地域へ貢献をしたいという気持ちや地域の一員としての自覚の芽生えが見られた。また地域の方との活動では積極的に行動する生徒が増えた。

5 実践の具体

(1) 「モシモやイツモの生活で中学生ができることを考えよう」（道徳）の実践

非常時（災害発生）と普段の生活の場面で、自助と共助の視点に分けて中学生の自分たちが地域のためにできることは何か考えた。意見をKJ法でまとめ、学級内で共有した。

(2) 総合防災訓練事前打合せ会（リーダー生徒と地域担当者）

リーダー生徒と地域の担当者が顔を合わせ、活動内容の確認を行った。

(3) 総合防災訓練（中学生の活動の拡充）

南材・若林・古城地区に分かれ、避難所設営・運営訓練へ参加した。

ロープワーク講習や初期消火など体験訓練の他、地域住民の方と共に避難所運営についても体験した。

6 年間指導計画をカリキュラムマネジメントの視点で見直したとき、平成31年度課題となること

- 目指す児童生徒の姿（目標）の実現に必要な仙台版防災教育の内容等を、教科等横断的な視点で組み立てること。
- 仙台版防災教育年間指導計画の実施状況を評価し、その改善を図ること。
- 仙台版防災教育の実施に必要な人的又は物的な体制を年間指導計画に的確に示すこと。

防災教育年間指導計画

仙台市立八軒中学校 1学年

防災対応力の構成要素		知識		技能		態度		大雨による洪水・浸水に関する学習
学習内容		防災や災害に関する 周辺の・基礎的な内容		防災や災害に関する 直接的な内容		防災や災害に関する 間接的な内容		
月	教科・領域 関連行事等	教科	総合	特活	道徳			
4	・校内安全点検 ・通学路の確認 ・春の交通安全運動 ・生活ルールの確認	・保健体育「集団行動」 ・美術（鑑賞） 「鳥獣花木図屏風」		・校外学習事前指導	・安全な登下校指導と通学路の確認 ・避難方法と避難経路の確認 ・集団行動と救急体制			
5	・校内安全点検	・英語（コミュニケーション） 「電話のかけ方」, 「道案内」等			・不審者への対応 ・連絡網の確認			
6	・校内安全点検 ・避難訓練（6/28） （火災想定）				・市中総休時の災害発生への対応指導 ・避難方法と避難経路の確認			
7	・校内安全点検 ・校内合唱祭 ・小中合同あいさつ運動 ・非行防止教室 ・校内安全点検		・非行防止教室	・校内合唱祭事前指導	・夏季休業中の安全指導		・「人を思う心」	
8								
9	・校内安全点検				☆総合防災訓練事前指導		・「ボランティア活動の意義」	
10	・校内安全点検 ・秋の交通安全運動 ・総合防災訓練（10/20）（大地震（大雨）想定）	・数学「比例・反比例」			・秋季休業中の安全指導 ☆総合防災訓練事前指導		・「生命の尊さ」 ・「地域の一員としての自覚」	総合防災訓練
11	・校内安全点検 ・花いっぱい運動		・市内自主研修事前指導	・避難方法と避難経路の確認	・総合防災訓練事後指導		・「勤労の尊さ」	
12	・校内安全点検 ・小中合同あいさつ運動	・家庭（快適に住まう）「衣生活・住生活と自立」			・冬季休業中の安全指導		・「人類の幸福への貢献」	
1	・校内安全点検	・家庭（快適に住まう）「衣生活・住生活と自立」						
2	・校内安全点検	☆理科「大地の変化」					・「よりよい集団生活の充実」	理科「大地の変化」
3	・校内安全点検 ・小中合同あいさつ運動 ・東日本大震災犠牲者への黙祷	・理科「大地の変化」			・春季休業中の安全指導			理科「大地の変化」

☆防災教育副読本活用